

史跡長久手古戦場保存活用計画

第3回策定委員会 資料

平成29年10月16日

長 久 手 市

目 次

第 1 章 計画策定の沿革・目的	1
1 計画策定の沿革	1
2 計画の目的	3
3 計画策定の体制と検討の流れ	3
4 上位計画などとの関係	6
第 2 章 史跡長久手古戦場の概要	13
1 史跡長久手古戦場の概要	13
（1）史跡長久手古戦場の歴史	13
（2）史料等で見る古戦場	16
（3）地形図に見られる変遷	25
（4）写真に見られる変遷	31
2 指定に至る経緯	40
3 指定の状況	41
（1）指定告示等	41
（2）指定解説文	44
（3）指定地の状況	46
（4）指定地の現況	51
（5）指定地の景観	119
4 史跡長久手古戦場と周辺環境	124
（1）自然環境	124
（2）社会環境	126
（3）法規制等	131
第 3 章 史跡長久手古戦場の本質的価値	133
1 史跡長久手古戦場の本質的価値	133
2 史跡長久手古戦場の再評価	135
3 構成要素の特定	137
（1）史跡を構成する要素	140
（2）史跡の周辺環境を構成する要素	146

第4章 現状の課題	148
1 保存、活用の課題の整理	148
(1) 史跡の本質的価値に関する事	148
(2) 保存・活用に関する事	149
(3) 管理上調整が必要な要素に関する事	149
2 整備課題の整理	150
3 運営体制の課題	151
第5章 保存管理の基本方針	152
1 保存管理の基本方針	152
2 保存管理の方法	152
3 現状変更等の取扱い方針	153
(1) 現状変更	153
(2) 現状変更等の取扱い	154
(3) 現状変更等の許可基準	155
(4) 追加指定について	158
第6章 整備活用計画	159
1 整備活用の基本方針	159
(1) 整備活用の必要性	159
(2) 基本方針	159
2 具体的方法	160
(1) 土地利用計画	160
(2) 保存に関する整備	未記述
(3) 活用に関する整備	未記述
第7章 運営・体制の整備	164
1 基本方針	164
2 管理運営及び体制整備の概要	164
(1) 連携体制の強化	164
(2) 住民協働体制の構築	164

第 1 章 計画策定の沿革・目的

1 計画策定の沿革

(1) 史跡長久手古戦場の概要

史跡長久手古戦場は、天正 12 年（1584）4 月 9 日、織田信長亡き後、天下取りを目指す羽柴（のちの豊臣）秀吉と織田信雄・徳川家康が戦った「小牧・長久手の戦い」で最大の戦闘地点となった古戦場である。また、秀吉と家康がたった一度直接対決した戦いの主戦場である。この戦いは「長久手合戦」と称されている。

その戦いの様子は、財団法人犬山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」などにも見られ、合戦の激しさ、当時の地形や植物なども詳細に描かれている。

(2) 合戦後（江戸時代）の流れ

秀吉と家康が戦った天下分け目の重要な合戦場跡として、尾張藩士らの敬慕を集め、合戦場であることを示す碑が建てられている。それが、首塚や色金山に残る「宝永の碑」や勝入塚、庄九郎塚、武蔵塚に残る「明和の碑」である。

文献としても「長久手征伐記」（赤林四郎左衛門信獅書 宝永 6 年（1709）〔安昌寺所蔵〕）や「遊長湫記」（人見茶・赤林信之文 本田尚洙 明和 9 年（1772）〔安昌寺所蔵〕）などに、訪れた当時の古戦場の様子や碑建立に至った動機などが書かれている。

(3) 合戦後（明治時代）の流れ

勝入塚、庄九郎塚、武蔵塚などに「長久手合戦」で亡くなった武将の戦死地をしめす塚「明治の碑」が各家子孫や地元有志により建てられている。これらの碑や塚は、現在まで地域の人々の手によって守られている。

(4) 合戦後（昭和以降～現在）

〔国指定史跡となる〕

これらの史実と保存の歴史が、昭和 14 年（1939）9 月 7 日文部省告示第 410 号、史蹟名勝天然紀念物保存法第一条により、「長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山」として、国の史跡指定を受けることとなった。

〔一部指定解除となる〕

長久手村大字長湫字城屋敷九〇番ノ一、九〇番ノ二（現在の血の池公園付近）は、土地開発により著しく改変があったとされ、昭和 40 年（1965）12 月 10 日付け文化財保護委員会告示第 66 号により、指定を解除された。

しかし、それ以降は、地元有志等による手厚い管理がされてきたことにより、現在も当時の野戦地の様相を想像できる地形が残されている。

〔急激に変化する周辺環境〕

このような中、史跡長久手古戦場を取りまく環境は大きく変化し、周辺の住宅地化

や大型商業施設の立地が進み、また、指定地に隣接する古戦場公園においては公園の再整備が検討されるなどしている。

これらの状況から、史跡長久手古戦場の価値を損なうことなく適切に保存し、歴史を活かした観光資源としても活用を図るため、保存活用計画を策定することとなった。

2 計画の目的

史跡長久手古戦場は、秀吉と家康がたった一度直接対決した天下分け目の重要な古戦場として重要な文化遺産である。

また、残された地形や史実を物語る「宝永の碑」、「明和の碑」、「明治の碑」などの遺構、それを大切に保存してきた地域の人たちの歴史がある。

このような史実と保存の歴史を持つ本史跡地を取巻く環境は、周辺の住宅地化や大型商業施設の立地など著しい変化がみられる。

本計画の策定は、史跡長久手古戦場の価値や構成要素を明確にし、将来にわたって良好な状態で確実に保存し、市民をはじめ、誰もが活用しやすい環境に整えることを目的とする。そのための保存と管理、整備や活用に関する基本方針を定めるものである。

今後、本計画に基づき、史跡を保存・活用するため、整備や活用に関する方針についても十分に検討をすることとする。

- 現況を把握し、史跡を適正に保存するための保存管理の方針の明示
- 周辺環境の変化、市の将来像を反映した史跡の整備活用のあり方を検討し、魅力のある歴史遺産としての活用

3 計画策定の体制と検討の流れ

平成 28 年 10 月 1 日に「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」設置要綱を定め、第 1 回「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」を同年 12 月 2 日に開催した。

「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」設置要綱及び委員等は次のとおりである。

史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会設置要綱

(設置)

第 1 条 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の保存活用計画（以下「保存活用計画」という。）を策定するため、史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

- (1) 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の保存に関すること。
- (2) 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の活用に関すること。
- (3) その他保存活用計画策定に必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員9名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、市長が委嘱する。

(1) 関係する分野に見識を有する学識経験者

(2) 地元有識者

(3) 地元関係者

(4) その他市長が必要と認める者

3 委員会には、助言者を若干名置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から保存活用計画の策定が終了する日までとする。

2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を委嘱することができる。この場合において、補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員の中から委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 議長は、委員長とする。

3 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員会に関係者の出席を求め、その意見を聞き、又は説明を求めることができる。

6 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長が必要と認めるときは、委員の承諾をもって会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、くらし文化部生涯学習課において総括し、処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか委員会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年10月1日から施行する。

(会議招集の特例)

2 この要綱施行後、最初の委員会招集は、くらし文化部長が行う。

史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会 名簿

選出区分		氏 名	職名等
学識経験者	(大学関係)	せぐちてつお 瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授
学識経験者	(大学関係)	まるやま ひろむ 丸山 宏	名城大学農学部生活環境科学科教授
学識経験者	(大学関係)	やまむら あ き 山村 亜希	京都大学人間科学研究科准教授
学識経験者	(大学関係)	みずたにえいたろう 水谷栄太郎	愛知淑徳大学教職・司書・学芸員教育センター教授
地元関係者	(観光交流協会)	すずきたか み 鈴木 孝美	観光交流協会会長
地元関係者	(地元有識者)	たなかよしかず 田中 義和	長久手市文化財保護審議会委員
地元関係者	(地元関係者)	たかの こうじ 高野 晃二	前自治会連合会長・区長会長
地元関係者	(地元関係者)	あさ い のぶとし 浅井 延鋭	前岩作区会区長
地元関係者	(地元関係者)	かわもとかつお 川本 勝男	景行天皇社・富士社 氏子総代長(H28 年度)
地元関係者	(地元関係者)	かわもと ひさし 川本 寿	景行天皇社・富士社 氏子総代長(H29 年度)

オブザーバー	あさの けいすけ 浅野 啓介	文化庁文化財部記念物課史跡部門文化財調査官
オブザーバー	まつもと あや 松本 彩	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主事

4 上位計画などとの関係

史跡長久手古戦場を含む周辺地域での上位計画及び関連計画は、以下のとおりである。

① 第5次長久手市総合計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

基本方針の中で指定地に隣接する長久手古戦場駅周辺は、商業をはじめとする集客機能や行政機能などを集積し、本市の新たな顔(シンボル・コア)として整備するとされている。

この総合計画は3つの主要プロジェクト計画があり、その一つである「リニモテラス構想」の目標は、“長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リニモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出します。”とあり、長久手古戦場の知名度や歴史性、古戦場公園の立地も生かした整備をするとされている。



土地利用構想図(平成20年度)  指定地を示す

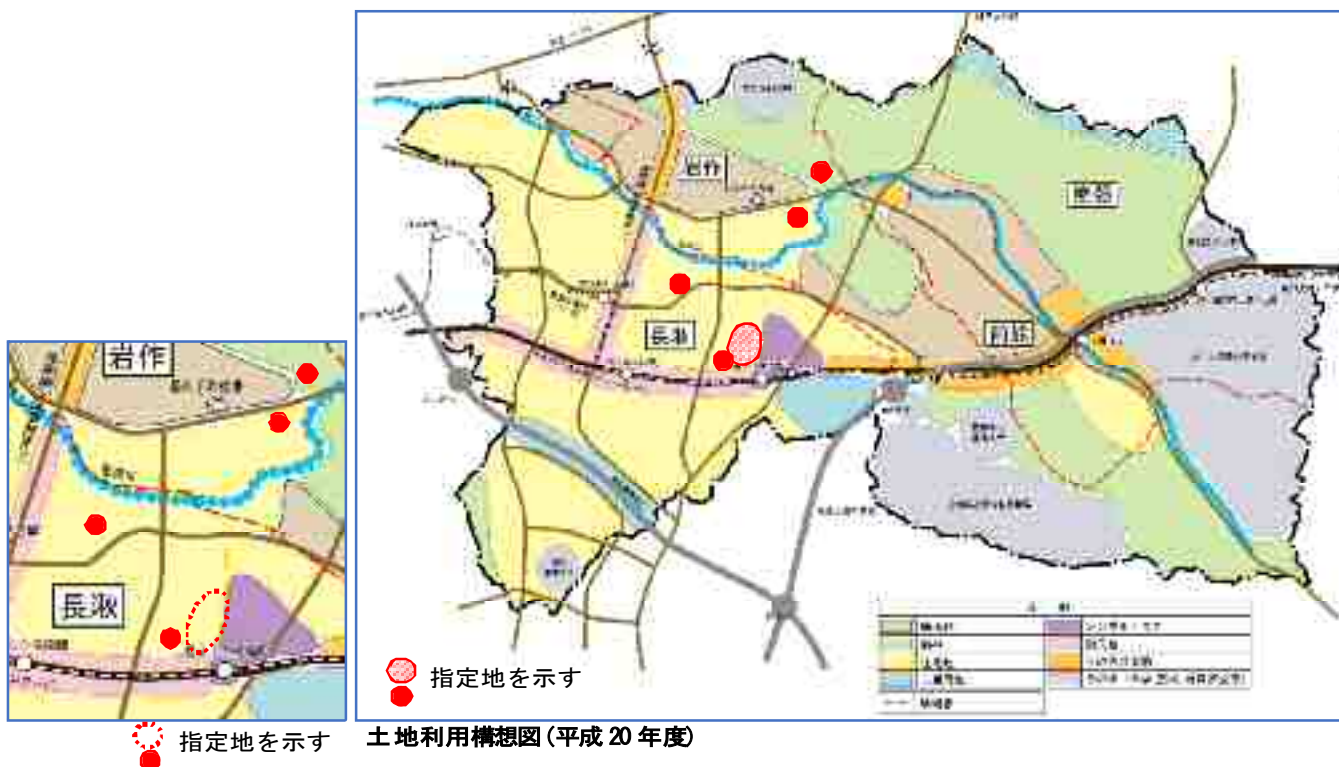


「リニモテラス構想」および周辺の立地イメージ

③ 第2次長久手市土地利用計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

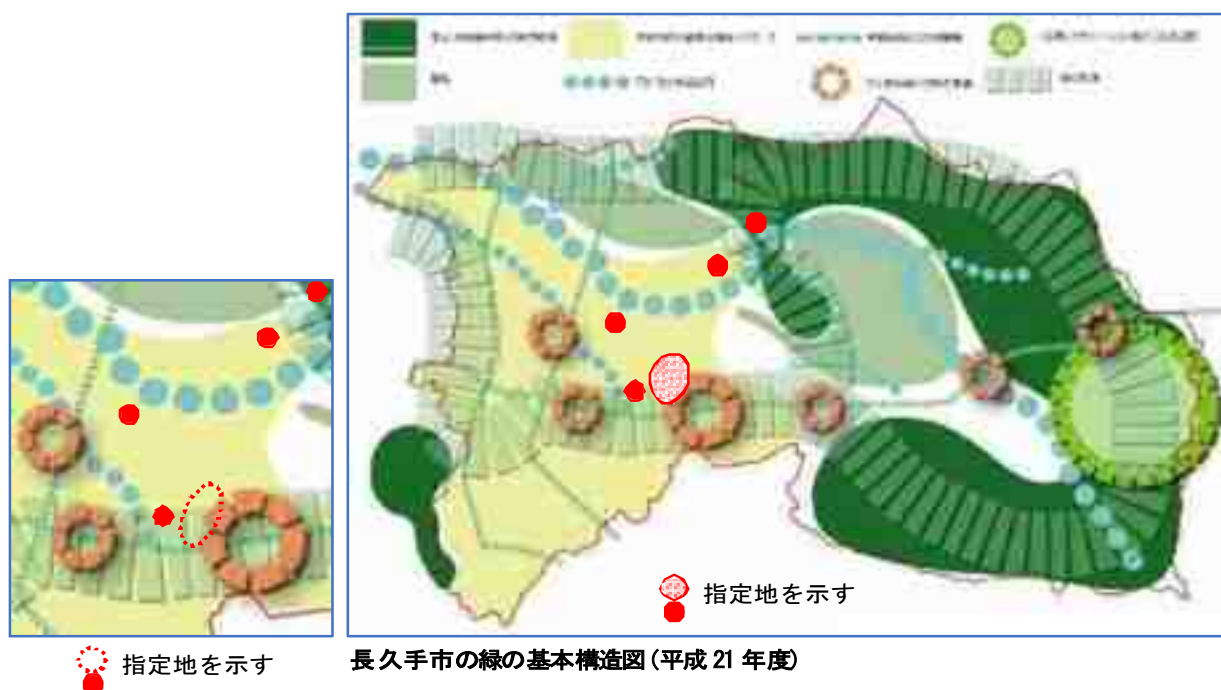
は、本市の新たなシンボル・コアとして商業施設、レクリエーション施設、住宅等の立地を図り、複合拠点の形成を進めるとともに、隣接地域を牽引する土地利用のあり方についても検討を進めます。さらに、将来フレームの検討を踏まえた上で、その周辺部に対し段階的な市街地拡大について検討を進めるとある。





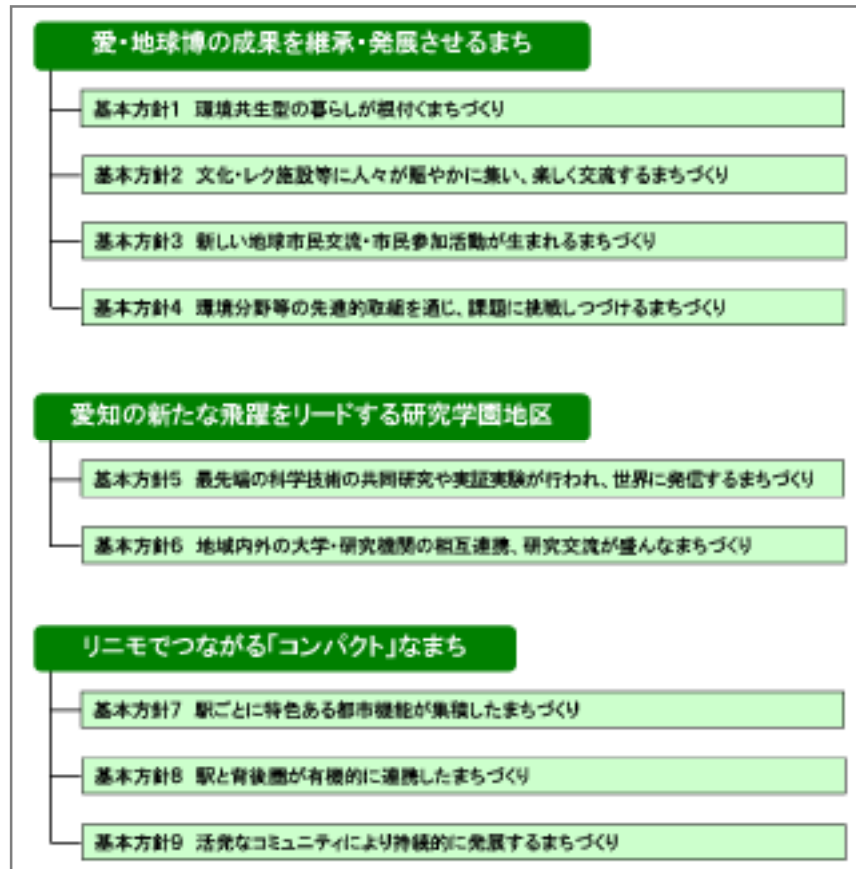
④ 緑の基本計画（平成22年3月策定、目標年次：平成30年度）

緑地の配置及び都市緑化に関する方針の中で、長久手古戦場駅周辺におけるシンボル・コアの形成にあたっては、古戦場公園の歴史要素も含め、本市の新たな「顔」としての景観形成を図るとある。



⑤ リニモ沿線地域づくり構想（目標年次：平成 21～27 年度）

愛知県とリニモ沿線の瀬戸市、豊田市、日進市及び長久手市が共同で策定した地域づくり計画で、地域の将来像とまちづくりの基本方針が以下のように示されている。



⑥ 第 2 次長久手市観光交流基本計画

（平成 27 年 3 月策定、計画期間：平成 27～28 年度）

目標像として、

あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手

“住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて”

基本理念として

魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」

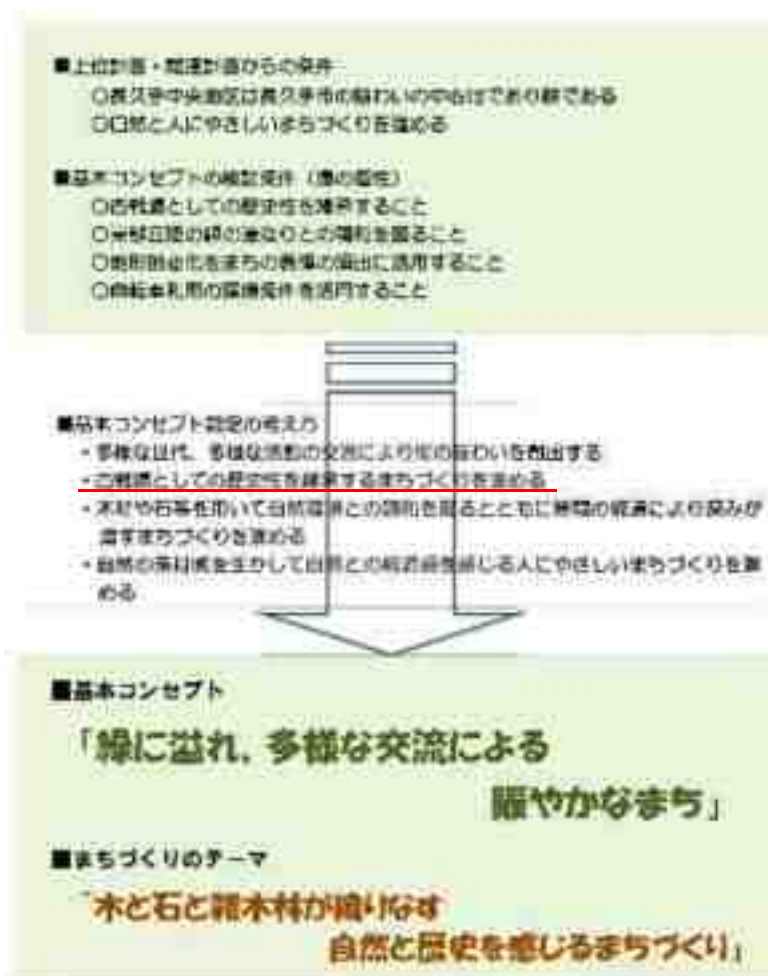
があげられている。

また計画に際して、市民や、観光交流に関わる施設職員、市民活動団体、商業店舗の来訪者 20 歳代から 70 歳代までの男女約 130 人を対象にアンケート調査（期間：平成 27 年 1 月）が行われており、市のイメージや今後の観光で重視していくべきことなどが調査されている。



アンケート結果を見ると「市をイメージするキーワード」としては、古戦場公園（史跡地も含むと考えられる）が3位と高く、また、「体験観光で重視していくべきこと」では2位となっており、今後は更に古戦場などの歴史的資源を活かした観光への取り組みが望まれていることがわかる。

⑦ 長久手中央地区まちづくり基本構想（平成25年3月策定）



よる婦やかなまち

●ちんちんず「木と石と性永持たぬは山猿と」

歴史を感じるまちづくり」

フラッグ1：つながり「一人ひとりに役割と居場所」

重宝つくりの芳林

6. 设计一个算法，求两个正整数的最大公约数。

- [illegible]

シリエモテラスの公認建築家

- ・大塚との関係、生半端な品評や文藝的要素の「強」に「権評」と「界外風情」が加わる。
・国が弱にすれば権評、強風情のサービスと見做す事。

のあるまち」

PLATE 10

- ・ 5月16日(月)に於いて徳島県立大学国際教育センター(学芸部国際教育センター)にて開校式。
- ・ 土曜日の午前授業(午前9時)から土曜日の午後土曜日午後6時(18時)まで開校。
- ・ 知財文化と国際化の両方に重点を置く「国際化・国際化教育の推進」をテーマに、開校式・開校記念式典(開校式)。
- ・ 3月16日「徳島市・徳島県文化センター」(徳島市)で開校式・開校記念式典を開催。開校式・開校記念式典。
- ・ 3月16日「徳島市・徳島県文化センター」(徳島市)で開校式・開校記念式典を開催。開校式・開校記念式典。
- ・ 3月16日「徳島市・徳島県文化センター」(徳島市)で開校式・開校記念式典を開催。開校式・開校記念式典。

フラッグ2：あんしん「助けがなかったら生きてい

まちづくりの方針

1. $\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

- 11 —

中興の聖職、これにしがたせしむるを志す

- 9. 已知函数 $f(x) = \sin x + \cos x$ ，求 $f(x)$ 在 $[0, \pi]$ 上的最大值和最小值。

2017年11月17日

- [illegible]

けない人は全力で守る

陳其南

- [illegible]

フラッグ3：みどり「ふるさと（生命ある空間）の

まちづくし

【ふだりの使用法】6.6L

- [illegible]

【2016年10月10日】

- 242 · 9. 3 2014 年 4 月 15 日

【図解にやさしい】

- 上海城市人口增长与人口控制
• 上海市人口增长与人口控制

【= 型別分類 = 2 次元平面図】:

- 1. 主觀的或客觀的士商關係與專業化程度。
- 2. 專業化程度與主觀、客觀的士商關係、認同、信任、關係的密切程度、信任、親密程度。
- 3. 主觀的或客觀的士商關係與專業化程度。

児童を子どもたちに」

[!\[\]\(e7ea92047a3749686f6e3b934958ade3_img.jpg\)](#)
[!\[\]\(3b934c2e85571625bbc8e9b57358bade_img.jpg\)](#)

- [illegible]

- ・質量中心の位置が、中心より外側にずれる。図 2.10

- 8716 = 142' 00" 40" 20" 30" 40" 50" 60" 70" 80" 90" 100" 110" 120" 130" 140" 150" 160" 170" 180" 190" 200" 210" 220" 230" 240" 250" 260" 270" 280" 290" 300" 310" 320" 330" 340" 350" 360" 370" 380" 390" 400" 410" 420" 430" 440" 450" 460" 470" 480" 490" 500" 510" 520" 530" 540" 550" 560" 570" 580" 590" 600" 610" 620" 630" 640" 650" 660" 670" 680" 690" 700" 710" 720" 730" 740" 750" 760" 770" 780" 790" 800" 810" 820" 830" 840" 850" 860" 870" 880" 890" 900" 910" 920" 930" 940" 950" 960" 970" 980" 990" 1000" 1010" 1020" 1030" 1040" 1050" 1060" 1070" 1080" 1090" 1100" 1110" 1120" 1130" 1140" 1150" 1160" 1170" 1180" 1190" 1200" 1210" 1220" 1230" 1240" 1250" 1260" 1270" 1280" 1290" 1300" 1310" 1320" 1330" 1340" 1350" 1360" 1370" 1380" 1390" 1400" 1410" 1420" 1430" 1440" 1450" 1460" 1470" 1480" 1490" 1500" 1510" 1520" 1530" 1540" 1550" 1560" 1570" 1580" 1590" 1600" 1610" 1620" 1630" 1640" 1650" 1660" 1670" 1680" 1690" 1700" 1710" 1720" 1730" 1740" 1750" 1760" 1770" 1780" 1790" 1800" 1810" 1820" 1830" 1840" 1850" 1860" 1870" 1880" 1890" 1900" 1910" 1920" 1930" 1940" 1950" 1960" 1970" 1980" 1990" 2000" 2010" 2020" 2030" 2040" 2050" 2060" 2070" 2080" 2090" 2100" 2110" 2120" 2130" 2140" 2150" 2160" 2170" 2180" 2190" 2200" 2210" 2220" 2230" 2240" 2250" 2260" 2270" 2280" 2290" 2300" 2310" 2320" 2330" 2340" 2350" 2360" 2370" 2380" 2390" 2400" 2410" 2420" 2430" 2440" 2450" 2460" 2470" 2480" 2490" 2500" 2510" 2520" 2530" 2540" 2550" 2560" 2570" 2580" 2590" 2600" 2610" 2620" 2630" 2640" 2650" 2660" 2670" 2680" 2690" 2700" 2710" 2720" 2730" 2740" 2750" 2760" 2770" 2780" 2790" 2800" 2810" 2820" 2830" 2840" 2850" 2860" 2870" 2880" 2890" 2900" 2910" 2920" 2930" 2940" 2950" 2960" 2970" 2980" 2990" 3000" 3010" 3020" 3030" 3040" 3050" 3060" 3070" 3080" 3090" 3100" 3110" 3120" 3130" 3140" 3150" 3160" 3170" 3180" 3190" 3200" 3210" 3220" 3230" 3240" 3250" 3260" 3270" 3280" 3290" 3300" 3310" 3320" 3330" 3340" 3350" 3360" 3370" 3380" 3390" 3400" 3410" 3420" 3430" 3440" 3450" 3460" 3470" 3480" 3490" 3500" 3510" 3520" 3530" 3540" 3550" 3560" 3570" 3580" 3590" 3600" 3610" 3620" 3630" 3640" 3650" 3660" 3670" 3680" 3690" 3700" 3710" 3720" 3730" 3740" 3750" 3760" 3770" 3780" 3790" 3800" 3810" 3820" 3830" 3840" 3850" 3860" 3870" 3880" 3890" 3900" 3910" 3920" 3930" 3940" 3950" 3960" 3970" 3980" 3990" 4000" 4010" 4020" 4030" 4040" 4050" 4060" 4070" 4080" 4090" 4100" 4110" 4120" 4130" 4140" 4150" 4160" 4170" 4180" 4190" 4200" 4210" 4220" 4230" 4240" 4250" 4260" 4270" 4280" 4290" 4300" 4310" 4320" 4330" 4340" 4350" 4360" 4370" 4380" 4390" 4400" 4410" 4420" 4430" 4440" 4450" 4460" 4470" 4480" 4490" 4500" 4510" 4520" 4530" 4540" 4550" 4560" 4570" 4580" 4590" 4600" 4610" 4620" 4630" 4640" 4650" 4660" 4670" 4680" 4690" 4700" 4710" 4720" 4730" 4740" 4750" 4760" 4770" 4780" 4790" 4800" 4810" 4820" 4830" 4840" 4850" 4860" 4870" 4880" 4890" 4900" 4910" 4920" 4930" 4940" 4950" 4960" 4970" 4980" 4990" 5000" 5010" 5020" 5030" 5040" 5050" 5060" 5070" 5080" 5090" 5100" 5110" 5120" 5130" 5140" 5150" 5160" 5170" 5180" 5190" 5200" 5210" 5220" 5230" 5240" 5250" 5260" 5270" 5280" 5290" 5300" 5310" 5320" 5330" 5340" 5350" 5360" 5370" 5380" 5390" 5400" 5410" 5420" 5430" 5440" 5450" 5460" 5470" 5480" 5490" 5500" 5510" 5520" 5530" 5540" 5550" 5560" 5570" 5580" 5590" 5600" 5610" 5620" 5630" 5640" 5650" 5660" 5670" 5680" 5690" 5700" 5710" 5720" 5730" 5740" 5750" 5760" 5770" 5780" 5790" 5800" 5810" 5820" 5830" 5840" 5850" 5860" 5870" 5880" 5890" 5900" 5910" 5920" 5930" 5940" 5950" 5960" 5970" 5980" 5990" 6000" 6010" 6020" 6030" 6040" 6050" 6060" 6070" 6080" 6090" 6100" 6110" 6120" 6130" 6140" 6150" 6160" 6170" 6180" 6190" 6200" 6210" 6220" 6230" 6240" 6250" 6260" 6270" 6280" 6290" 6300" 6310" 6320" 6330" 6340" 6350" 6360" 6370" 6380" 6390" 6400" 6410" 6420" 6430" 6440" 6450" 6460" 6470" 6480" 6490" 6500" 6510" 6520" 6530" 6540" 6550" 6560" 6570" 6580" 6590" 6600" 6610" 6620" 6630" 6640" 6650" 6660" 6670" 6680" 6690" 6700" 6710" 6720" 6730" 6740" 6750" 6760" 6770" 6780" 6790" 6800" 6810" 6820" 6830" 6840" 6850" 6860" 6870" 6880" 6890" 6900" 6910" 6920" 6930" 6940" 6950" 6960" 6970" 698

- [illegible]

これらの上位計画を見ると、各計画とも史跡地に接する古戦場公園駅周辺を市の新たな都市核（シンボル・コア）として位置づけ、整備して行こうとしているのがわかる。

⑧ 古戦場公園再整備基本構想（平成27年3月策定）

この計画は、総合計画などの上位計画をうけ、市民や市内の大学生の参加によるワークショップ形式で計画されたもので、史跡地を含んだ古戦場公園の再整備に向けて基本的な方針を検討したものである。



市民や大学生による検討会

[illegible]

この構想に基づき、古戦場公園再整備基本計画を策定中である。

第2章 史跡長久手古戦場の概要

1 史跡長久手古戦場の概要

(1) 史跡長久手古戦場の歴史

天正10年(1582)6月、織田信長が本能寺で明智光秀に討たれたのを発端に、羽柴(のちの豊臣)秀吉と織田信雄・徳川家康が天下をかけて戦ったのが、「小牧・長久手の戦い」である。長久手古戦場は両軍が激突した激戦地として知られている。以下に戦いの概要を述べる。



[出展 ; H21 年度長久手町郷土資料室特別展資料より]

小牧・長久手の戦い

◆発端

天正10年(1582)6月、織田信長が家臣の明智光秀の手にかかり、本能寺で討たれた。そのとき、信長の三男信孝を大将に、光秀討伐軍を指揮したのが、羽柴(のちの豊臣)秀吉である。秀吉は、信長の後継者を決める清洲会議からしばらくすると、柴田勝家と対立し、天正11年賤ヶ岳の戦いで破った。こうした中で、信長の次男信雄は、当初は秀吉と友好関係をもったものの、信孝が秀吉に岐阜城を追われ自害した後からは警戒心をもつようになった。信長の後継者の立場を事実上確立した秀吉に対し、不満を感じる信雄は、織田家の同盟者であった徳川家康に助けを求めた。家康は、いつかは秀吉と対決しなければならないと考えていたので、これに応じた。天正12年3月6日、信雄が秀吉に内通していた三人の家老を殺害したことで、「小牧・長久手の戦い」は始まった。

◆主戦場は尾張に

秀吉そして家康・信雄の両者とも、当面は伊勢国、特に信雄の本拠長島城（三重県桑名市）のある北伊勢を戦闘場所と想定していた。しかし、家康・信雄の予想に反し、美濃国大垣城主・池田恒興と美濃国金山城主・森長可が犬山城（愛知県犬山市）を攻撃、落城させた。慌てた家康は、池田・森の侵攻を防ぐため、自軍の一部を北伊勢から北尾張へ急遽転戦。天正12年（1584）3月17日、羽黒（犬山市）まで陣を進めてきた森軍を、家康の部将酒井忠次らが敗って、形勢を立て直した〔羽黒の戦い〕。一方、北伊勢では秀吉軍への守りが不足し、信雄領伊勢国の南半分は、ほぼ壊滅状態となった。羽黒で敗戦したものの、敵地犬山に拠点をもつことに成功した秀吉は、楽田（犬山市）に着陣、周辺に砦を築いた。楽田から南方約4.5kmの小牧山（愛知県小牧市）に家康も陣を移し、近辺に砦を作った。信雄も長島から小牧山に移った。両者の当初の思惑に反し、主戦場は尾張国内へ移り、お互いが出方をうかがうという状況になった。また、諸国へもこの戦いの様相が伝えられ、両将からの呼びかけに呼応し合戦に至った地域もある。秀吉方、織田・徳川方のどちらにつくか。この戦いは、日本中へ大きな影響をおよぼした。

◆岡崎進軍

4月に入り、膠着状態を破って秀吉軍は岡崎侵攻のための別働隊を進めた。史記類をもとにした通説では、この作戦の発案者は池田恒興で、「家康配下のほとんどの部隊は小牧山にいる。今、家康の本拠地岡崎を突けば、家康軍に乱れが生じ、そこを突けば勝利できる」と提案。最初はこの案に賛成しなかった秀吉も、恒興の熱心さに押され、ついに承諾したとされる。しかし、近年の研究で、事前の普請（工事）、行軍の規模、ゆっくりとした移動日程などから、この作戦は隠密行動というより、計画的で大がかりなものであったことがわかってきた。秀吉は、この案に主体的に介入し、自信をもっていたと思われるが、結果的には、この作戦の失敗は秀吉の汚点となった。そのため「太閤記」では、秀吉が恒興の案を「仕方なく受け入れた」と記され、後の史記がそれに従ったと考えられる。4月6日夜半、①池田恒興・元助の父子、森長可②堀秀政、長谷川秀一③秀吉の甥で総大将の三好信吉の順で、約24,000人の軍勢が岡崎へ向けて進軍を始めた。

◆岩崎城の落城

家康は、7日、遅くとも8日には秀吉方の岡崎侵攻隊の動きを把握、8日夜には自身が小幡城（名古屋市守山区）へ進んだ。岩崎城主丹羽勘助氏次を道案内役とした榊原康政ら4,500人の先発隊と9,300人の本隊が秀吉方を追撃に向かった。4月9日早朝、岡崎侵攻隊の先鋒池田隊は、岩崎城（日進市）のそばを通りかかった。恒興は、岡崎への道を急ぐため、この家康方の城を攻めずに通過しようとしたが、岩崎城を守っていた氏次の弟丹羽氏重らが鉄砲を撃ちかけてきたため、これを攻め落としてしまった。この城には、城主氏次の姉婿で長久手城主の加藤太郎右衛門忠景も留守番に来ており、200名余りの城兵とともに戦死した。忠景41歳、氏重16歳であった。なお、長久手城趾は、現在市指定史跡となっている。

◆白山林の戦い・家康軍の急襲

秀吉の甥で、当時わずか17歳の三好信吉が指揮する秀吉方の最後尾は、4月9日早朝、白山林（尾張旭市）で朝食をとっていた。そこへ徳川軍の先発隊が背後から急襲。不意を突かれた三好隊は、あわてて防戦に努めたが、ついに総崩れとなった。大将信吉は細ヶ根（長久手市荒田）付近まで逃げてきたが、自分の馬も見失って、討死寸前まで追い込まれた。そこへ信吉の部将の木下勘解由利匡が、自分の馬を信吉にさし出して逃し、兄弟の木

下助左衛門祐久とともに、追ってきた徳川軍と戦って戦死した。なお、木下一族の塚は現在も荒田に残っており、勘解由利匡の塚が市指定史跡になっている。

◆ 桧ヶ根の戦い - 秀吉軍 唯一の勝ち戦 -

三好隊の敗走を知った秀吉方の第2隊の堀秀政は、ただちに桧ヶ根（長久手市坊の後／中央図書館付近）の丘陵上に陣を構えた。まもなく白山林で勝利した徳川勢が突進してきた。地の利を得た堀勢は、接近してきた敵に鉄砲のつるべ打ちをあびせた。隊列を乱した徳川勢に向けて、秀政は総攻撃を命令。堀勢の鋭い攻撃に徳川の先発隊は、多数の死者を出し、大打撃を受けた。しかしこのとき、秀政はすでに家康の本体が東方に進出しているのを知った。深追いは不利と判断した秀政は、急いで自軍をまとめて、北方へ引き上げていった。

◆ 仏ヶ根の決戦

4月9日の朝、色金山（長久手市岩作色金／色金山歴史公園）周辺に着いた家康の本隊は、続々と香流川を渡って、午前10時ごろ富士ヶ根（長久手市富士浦）から仏ヶ根（長久手市武蔵塚の北部）、前山（長久手市城屋敷の東部）に陣を構えた。一方、岩崎城を落とした池田恒興のもとへ、信吉大敗の報告がもたらされた。恒興は急いで馬首を返し、すでに布陣を終えた徳川軍に対し、恒興は自分の長男元助を右翼に、娘婿の森長可を左翼に配した。両軍は激しく戦ったが、勝敗はなかなか決しなかった。しかし昼ごろ家康の本営に突進した長可が、井伊隊の銃弾を頭に受けて戦死（享年27歳）したため、戦いは徳川軍が優勢になった。戦闘の終焉は、午後1時であった。池田恒興は永井伝八郎に、子の元助は安藤直次に討たれた。恒興49歳、元助26歳であった。池田父子の塚は、現在も国指定史跡として古戦場公園内に残る。

◆ 和睦

長久手の戦いで勝利をおさめた家康は、ただちに小幡城を経て小牧山に戻った。一方秀吉は4月9日昼ごろ、楽田の本営で岡崎侵攻隊の敗戦を知り、すぐに大軍を率いて救援に向かった。しかし、ときすでに遅く、龍泉寺まで進んだものの、そのころには家康は小幡城まで兵を引いた後であった。翌10日には、家康はすでに小牧城まで戻っており、秀吉軍は、なすすべもなく楽田にひき返した。その後、両軍は小牧・楽田周辺で小競り合いをしていたが、4月下旬に秀吉が美濃国鶯沼（岐阜県）に移動すると戦闘地域も尾張西部へ移った。5月に加賀野井城・竹鼻城（岐阜県羽島市）、6月に蟹江城（愛知県海部郡蟹江町）で局地戦があったが、11月になると、桑名から長島方面へ攻撃した秀吉と、長島城にこもる信雄が単独で和睦したため、大義名分を失った家康も兵を引き、約8か月間にわたった「小牧・長久手の戦い」は、幕を閉じた。

この戦いで、信雄は伊勢国の大半と伊賀国を秀吉にわたし、事実上の敗北。秀吉は、旧信長家臣団を自身へ臣従させ支配体制を再編成、翌年には関白となり全国統一を推し進めていく。家康は、結果的に秀吉に臣従したが、その実力を全国の大名に認識させ、秀吉政権下でも別格の地位を保ち、徳川政権樹立の足がかりを固めていった。

(2) 史料等で見える古戦場

ア 合戦図屏風

「小牧・長久手の戦い」、特に「長久手合戦」の様子を描いた合戦図屏風が複数存在する。最も早い時期に成立したといわれ、他の写本の基となったといわれるものに財団法人犬山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」(以下「成瀬家本」という。)がある。

※下表の合戦図屏風については、●印のあるものは長久手町史 本文編 付図に詳細な解説がある。

表 合戦図屏風一覧

名 称	作成年代	所 蔵	備 考
●小牧長久手合戦図屏風(副本) 六曲一隻	江戸初期	犬山成瀬家所蔵	成瀬家本の副本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	松浦史料博物館	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	個人	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	三河武士のやかた家康館	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	東京都個人	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風(粉本) 六幅	江戸後期	東京国立博物館	成瀬家本の粉本
●小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸後期	徳川美術館所蔵	成瀬家本の写本、一部改作
●小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸中期	大阪城天守閣所蔵	徳川本系の写本
●長久手合戦図屏風 六曲一隻	江戸中期	豊田市所蔵(浦野家旧蔵)	成瀬家本の写本、一部改作
●小牧長久手合戦図屏風	江戸中期	名古屋博物館所蔵	
※●の作成年代は、「長久手町史 本文編」による。その他は、「図説 戦国合戦図屏風」2004年(学研)を参考とした。			



小牧長久手合戦図屏風

犬山城成瀬家所蔵



小牧長久手合戦図屏風

大阪城天守閣所蔵



小牧長久手合戦図屏風

徳川美術館所蔵



長久手合戦図屏風

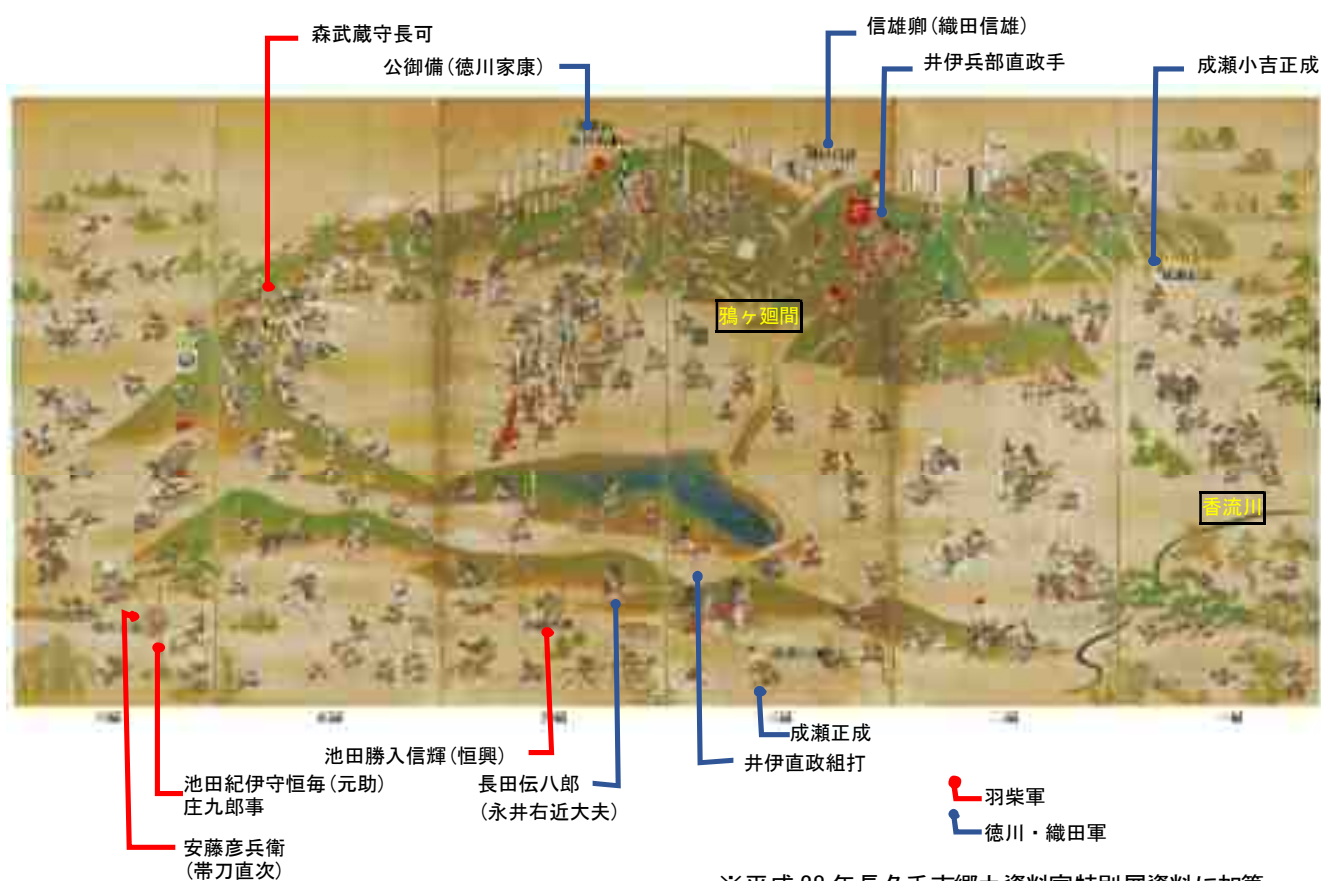
豊田市所蔵（浦野家旧蔵）



小牧長久手合戦図屏風

名古屋市博物館所蔵

「成瀬家本」に見られる主要場面。



※平成 28 年長久手市郷土資料室特別展資料に加筆



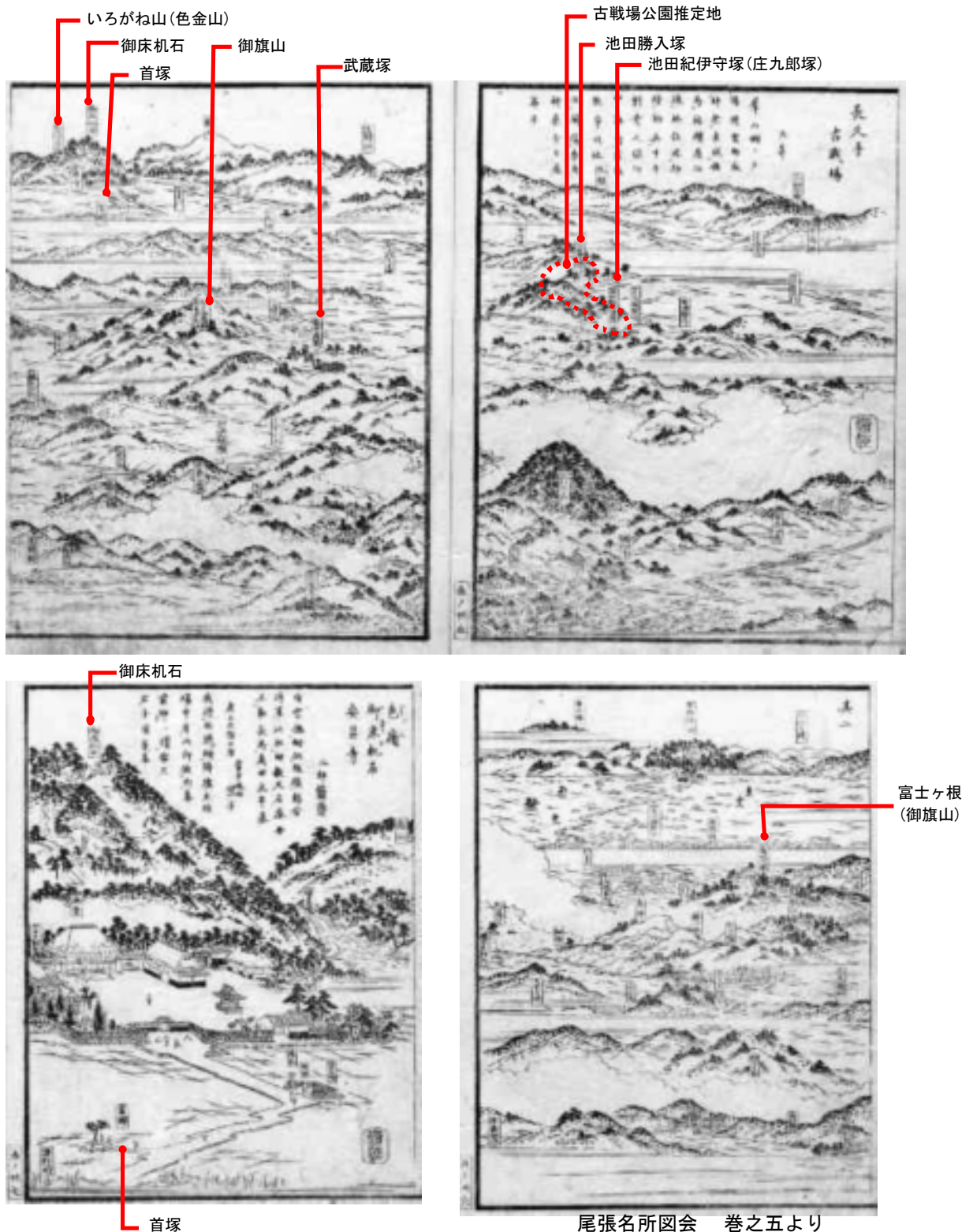
※平成 28 年長久手市郷土資料室特別展資料に加筆

『長久手合戦覚書』には、「御合戦場は中に通ありて、道より御東の方は田、御右の方は路切にため池有、それより御右の方はくほみにて是場よく、前後野原にて小松少々有之よし」と描写されている。下図は、現在の長久手市の様子である。



イ 絵図など

『尾張名所図会』は、天保12年(1841)に成立されたもので、尾張の名勝、古跡、風俗、名産、神社仏閣などを絵と平易な文章で説明した地誌である。前編は名古屋・熱田を含む愛知郡・知多郡・海東郡・海西郡の四郡を収録する。長久手市関係は巻之5に散見する。その中で古戦場に関する絵図には、以下のようなものがある。





尾張名所図会附録 三より

名所見物という感覚が、いつ頃から一般に生じたものか、定かではないが、江戸時代に入ると、神社仏閣参詣だけでなく歴史の現場を見て、史的事実を巡りながら景観も楽しむことが行われていた。長久手における史料としては、『鸚鵡籠中記』や『尾張徇行記』、『尾張名所図会』があり、見物コースとしては古戦場全体を俯瞰し、池田勝入塚、森武蔵塚などをたどって色金山の麓にある安昌寺を訪ねるといったことが行われていた。

① 「尾州愛知郡長久手之邑」絵図 寛政 5 年（1793）

江戸時代に古戦場を訪れる多くの尾張藩士に供覧され、絵図で見所やその区間の距離等が書かれている。



寛政 5 年（1793）

② 長湫古戦場之図 天保 11 年（1840）



色金山
勝入塚
御旗山
庄九郎塚
武蔵塚

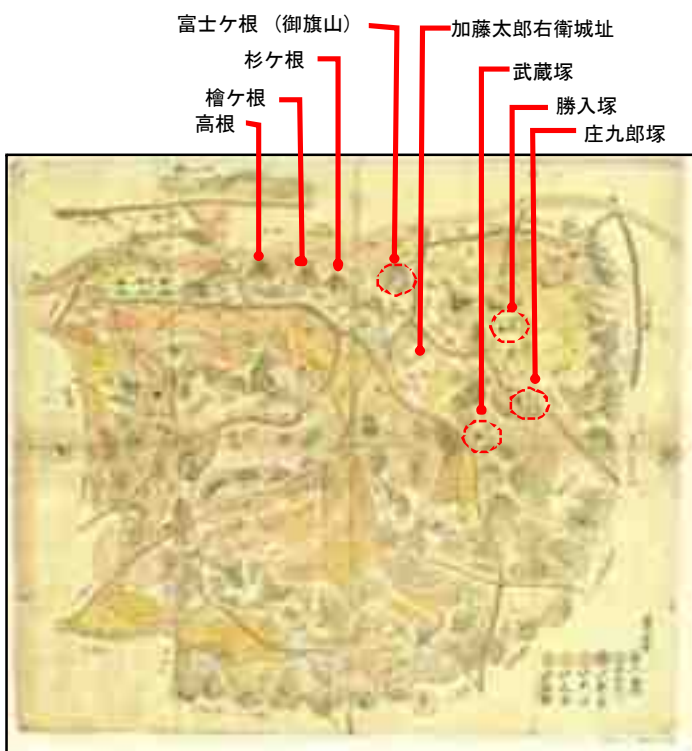
天保 11 年（1840）

③ 近世村絵図

寛政4年（1792）から万延元年（1860）にかけて作成されたものである。

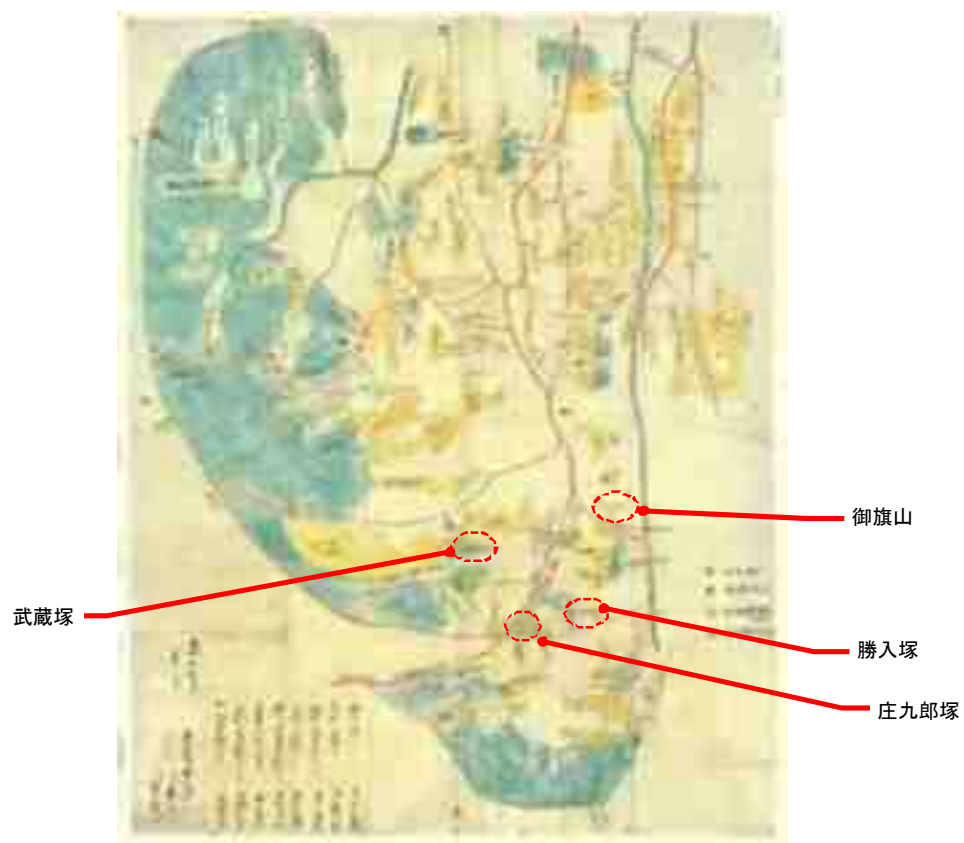


岩作村 万延元年（1860）



長久手村 寛政期





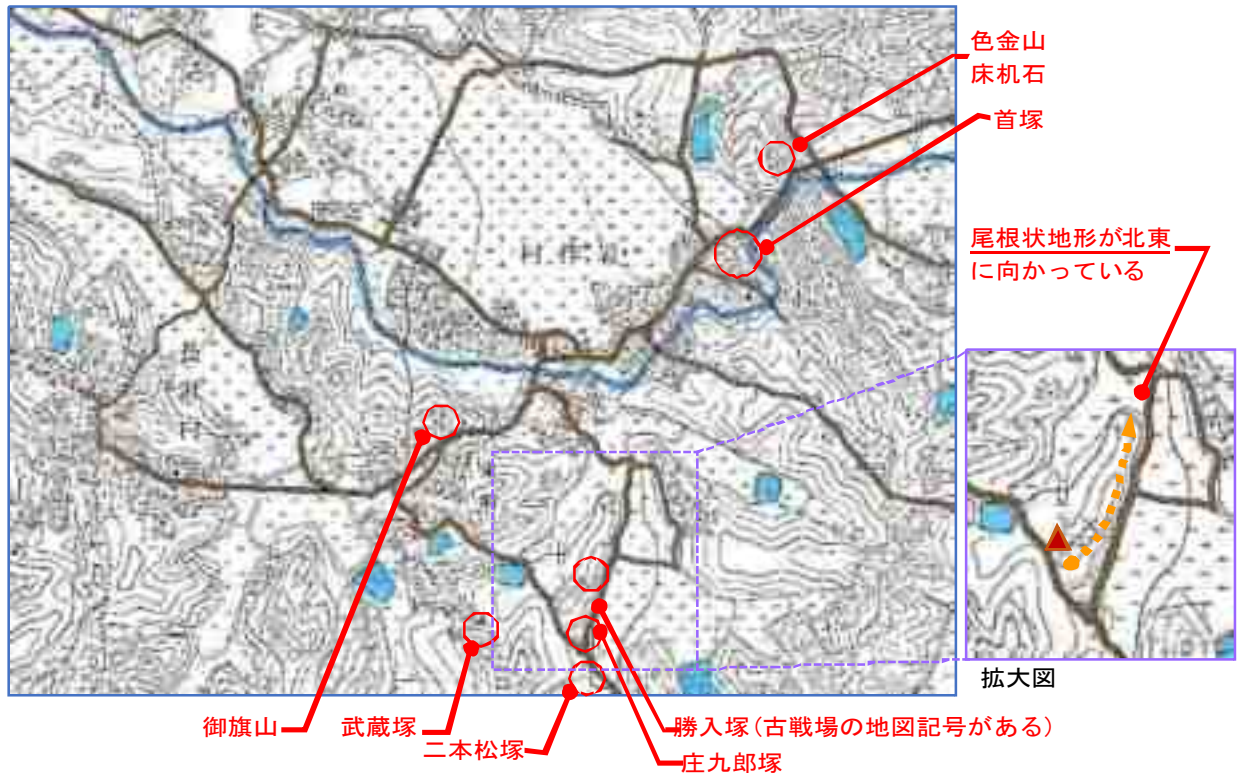
長久手村 嘉永 2 年（1849）



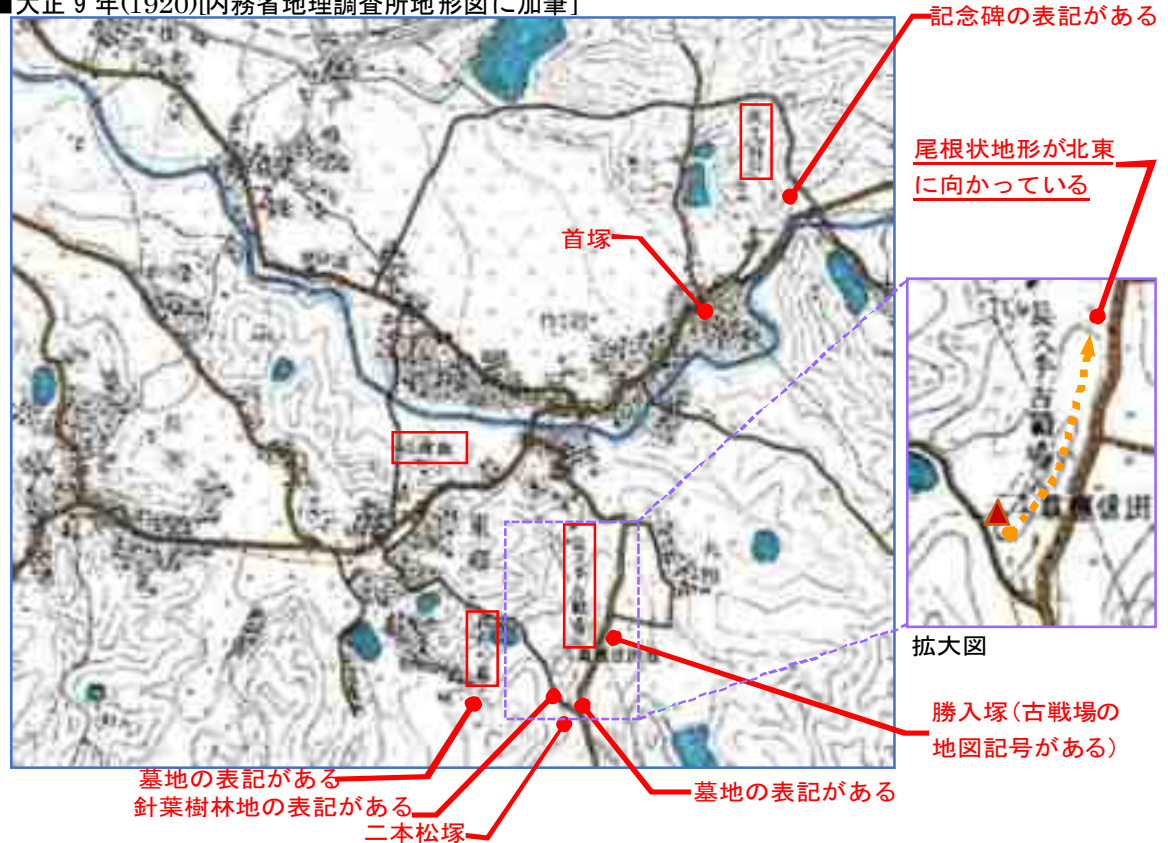
(3) 地形図に見られる変遷

指定地やその周辺の地形を明治、大正、昭和と比較して、本来の地形がどうであったか、いつ頃から現在の姿になったかを見ていく。

■明治 44 年(1911)[大日本帝国陸地測量部地形図に加筆]



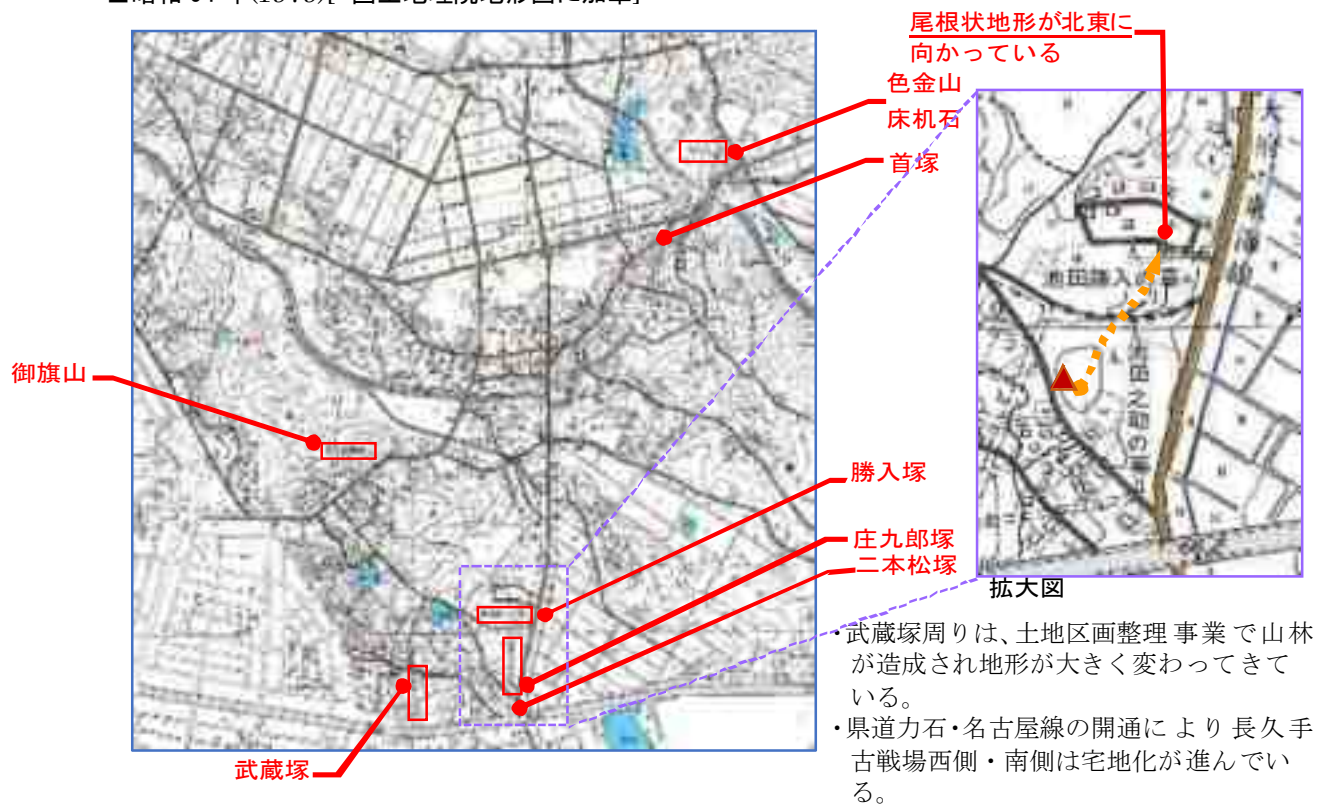
■大正 9 年(1920)[内務省地理調査所地形図に加筆]



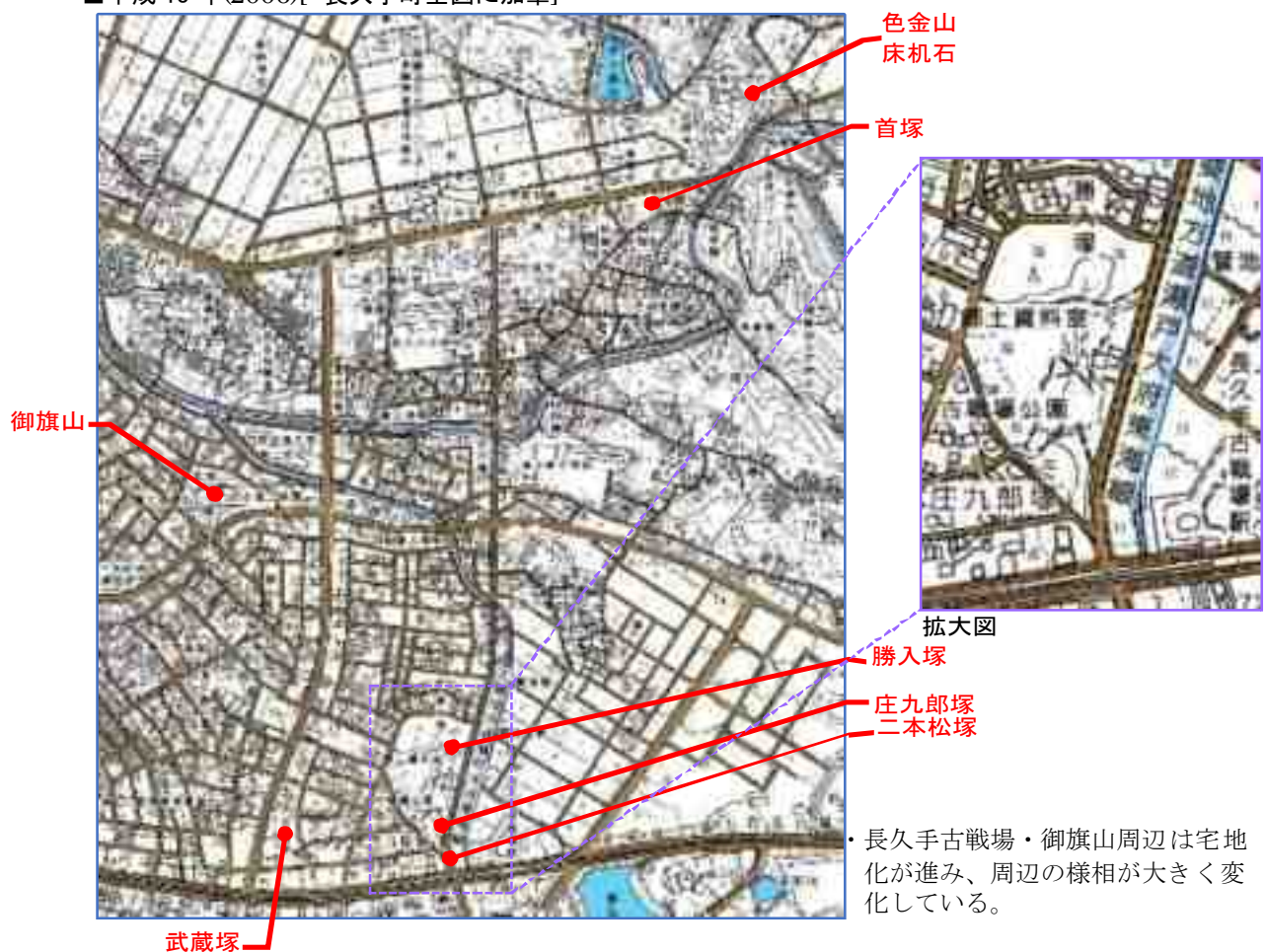
- ・武蔵塚西側に道が造られている。
樹林の記号があることから、地形は変わっていない。

- ・長久手古戦場南側に県道力石・名古屋線が整備され、大きな変化が見られる。樹林の記号があることから、地形は変わっていない。
- ・色金塚・首塚西側は圃場整備がされ、変化が見られる。

■昭和 54 年(1979)[国土地理院地形図に加筆]



■平成 18 年(2006)[長久手町全図に加筆]



■平成 25 年(2013)[長久手市]



■平成 28 年(2016)

現況測量図

- ・明治以降の地形図から見られる尾根線は、現在も残っているのが確認できる。
- ・明治以降の地形図を比較すると尾根の頂上は、現在も変わっていないのが確認できる。
- ・史跡地に接する西側の道路は、明治時代の地形図にも表記されている。



区画整理前の地籍図

勝入塚と御旗山は長湫中部土地区画整理事業、庄九郎塚、二本松塚、武蔵塚は長湫東部土地区画整理事業により周辺部が大きく変わった。

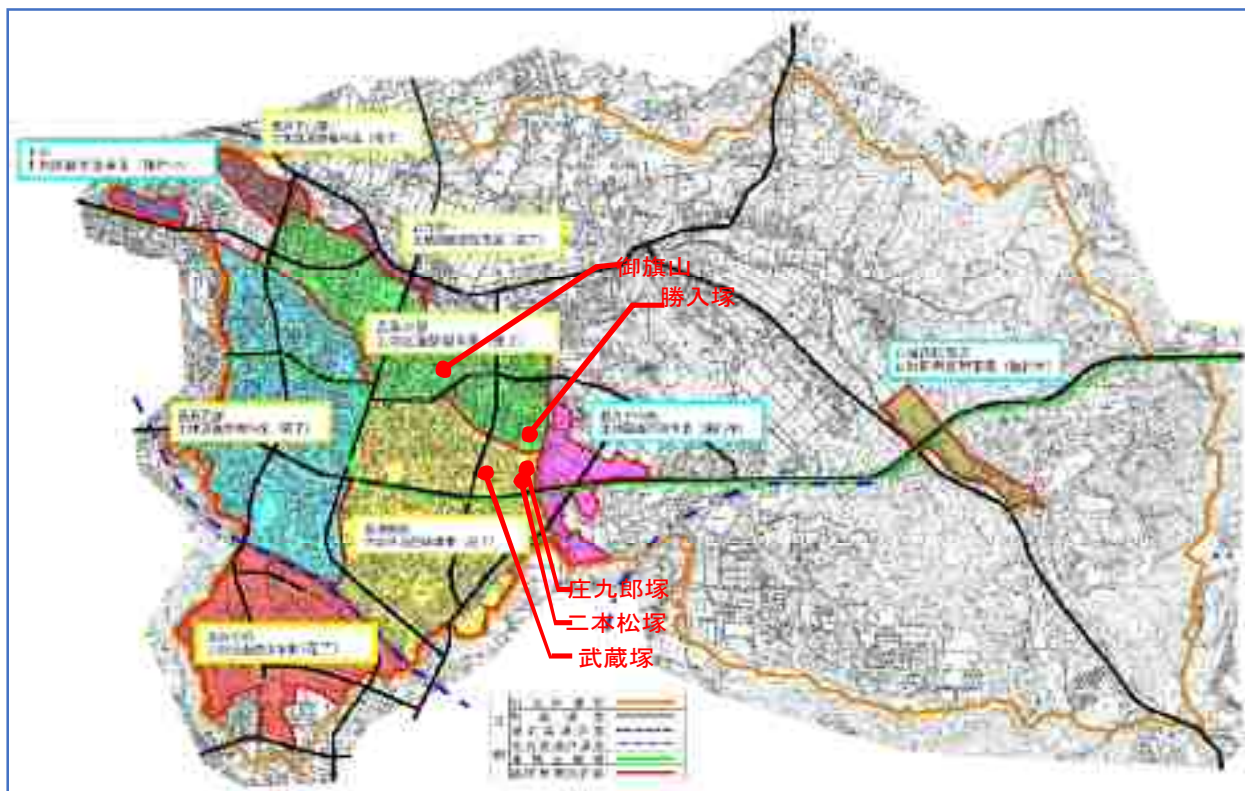
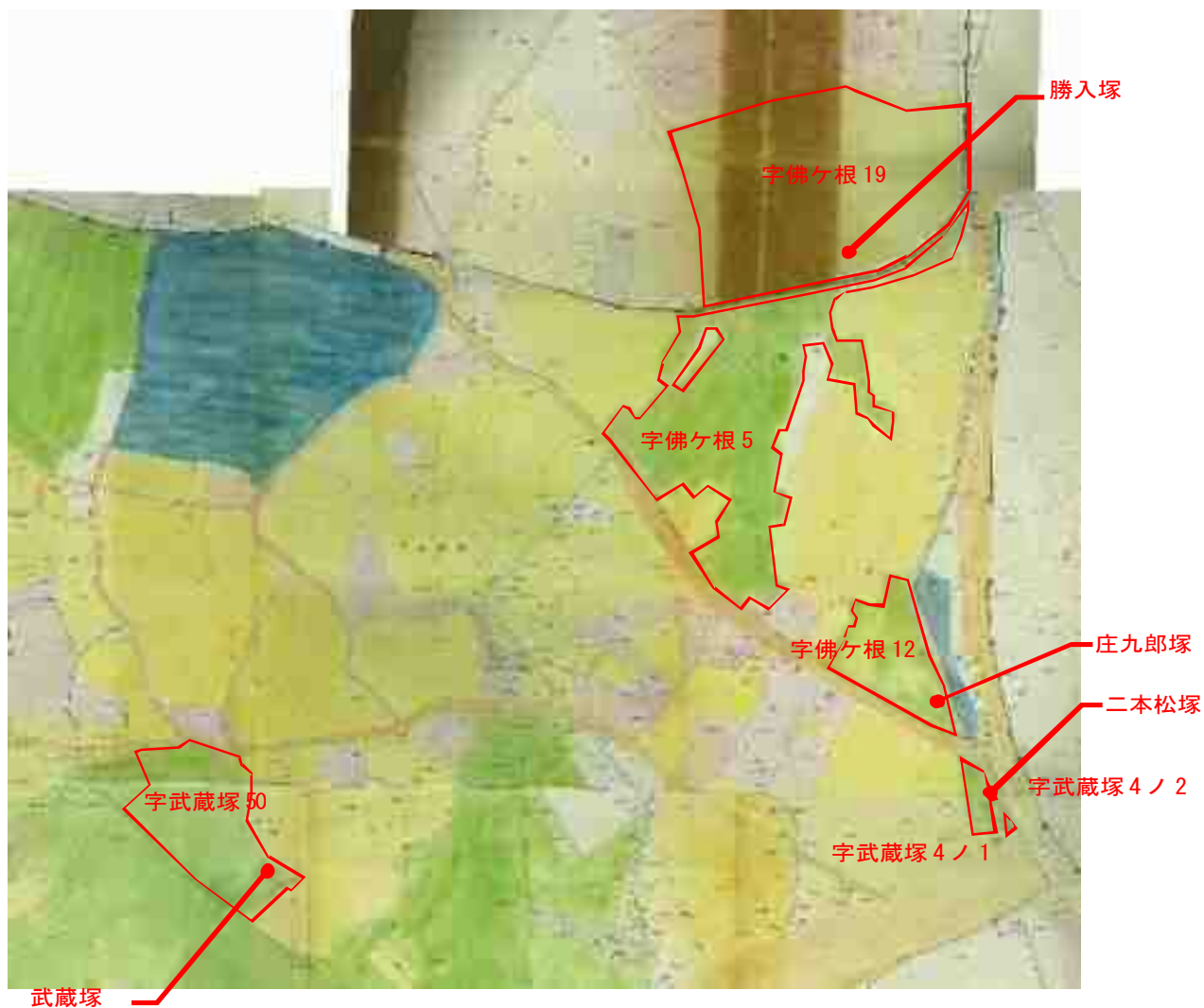


図 一 土地区画整理地区位置図

表一 土地区画整理地区の概要

事業名	面積(ha)	施工認可期間	計画人口(人)	計画戸数(戸)	進捗	史跡関係箇所
長湫西部	158.9	昭和47～平成12年度	14,847	3,907	完了	完了
長湫東部	163.5	昭和48～平成5年度	14,463	3,806	完了	庄九郎塚・武蔵塚・二本松塚
下山第一	13.6	昭和53～昭和56年度	1,261	332	完了	完了
長湫中部	106.7	昭和56～平成16年度	8,822	2,757	完了	勝入塚・御旗山
岩作第一	4.7	平成4～平成15年度	342	114	完了	完了
長湫南部	98.2	平成10～平成19年度	5,100	1,910	完了	完了
長久手中央	27.4	平成22～平成31年度	1,730	692	施行中	施行中
公園西駅周辺	20.6	平成25～平成35年度	1,200	480	施行中	施行中
下山	5.5	平成25～平成32年度	450	180	施行中	施行中



区画整理前の地籍図

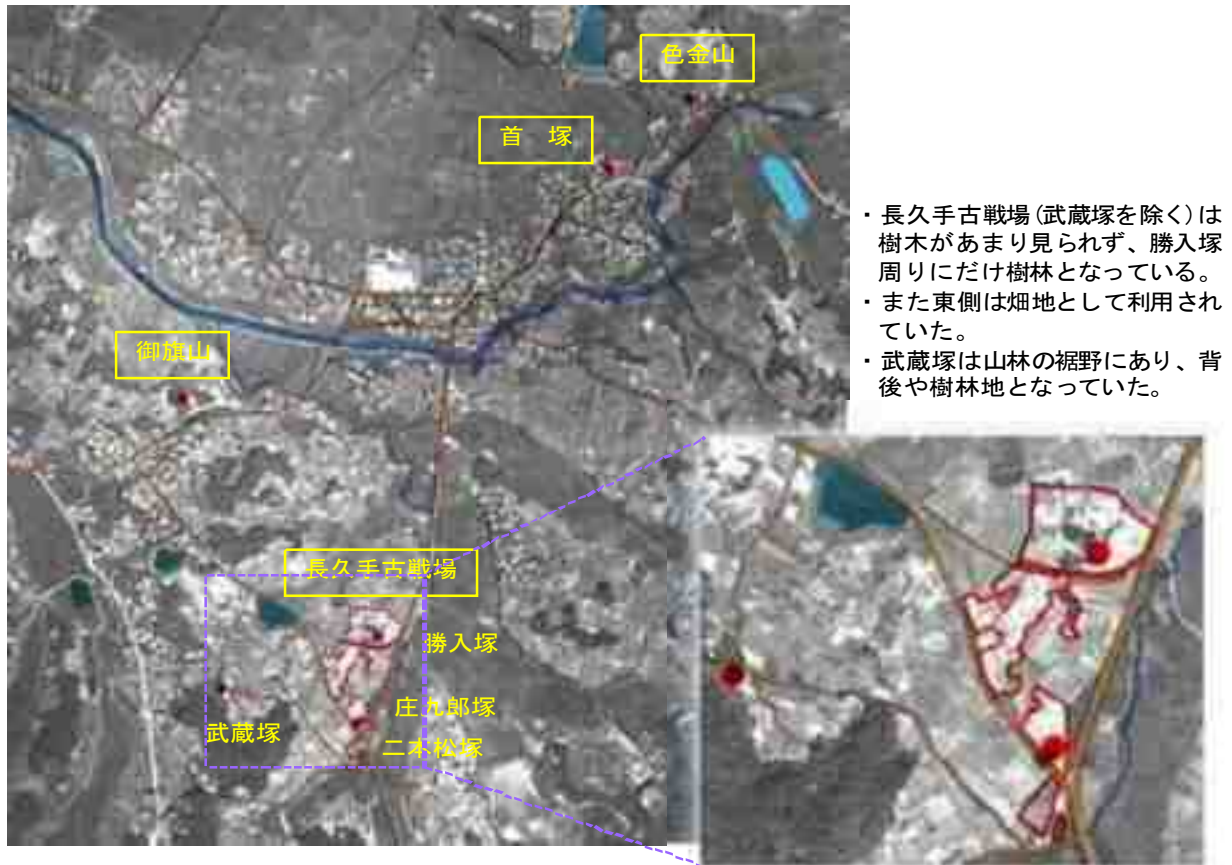


区画整理前の地籍図

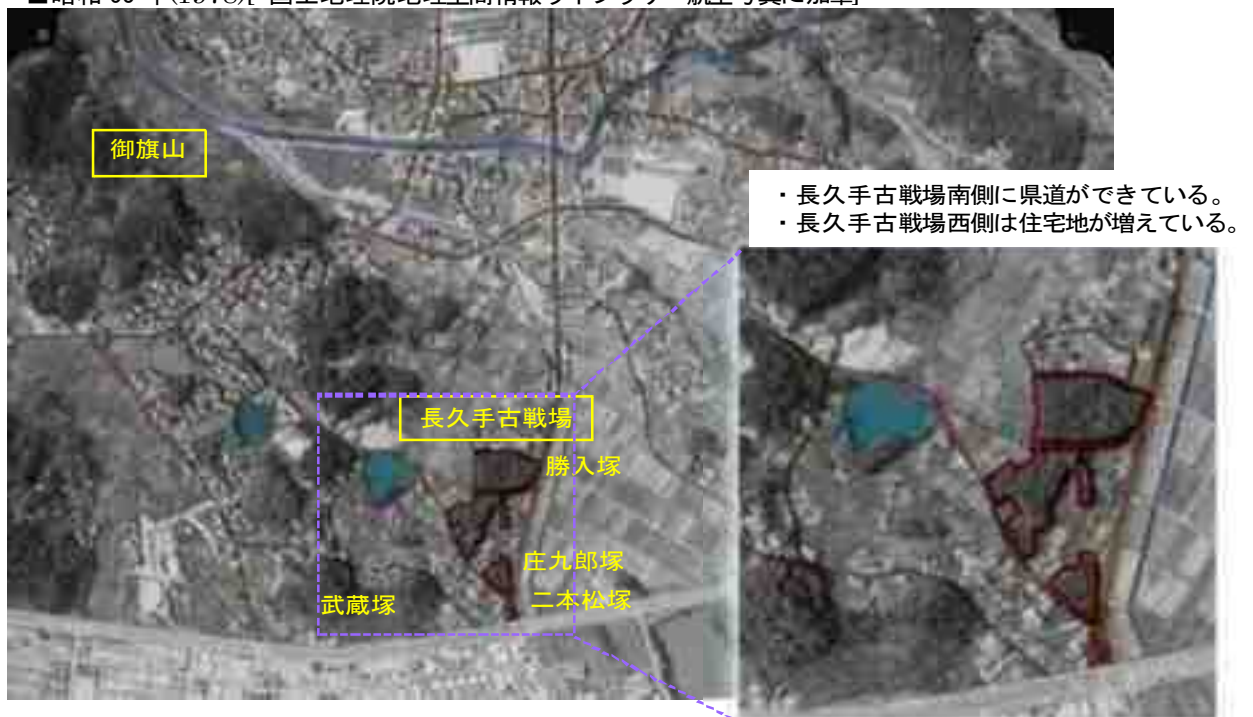
(4) 写真に見られる変遷

指定地やその周辺の地形を昭和と平成時代の航空写真で比較した。

■昭和 23 年(1948)[国土地理院地理空間情報ライブラリー 米軍撮影航空写真に加筆]



■昭和 53 年(1978)[国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■昭和 60 年(1985)[国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■昭和 62 年 (1985) 国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■平成 2 年(1990) [国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



・御旗山と長久手古戦場間の山林がなくなり、宅地となっている。



■平成 28 年(2016) [ゲーブルズ航空写真に加筆]



・長久手古戦場の東側に大型商業施設が建設されている

■石碑で見る変化【勝入塚】

● 明治 43 年頃

(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



- ・石碑の横に松が植えられている。周辺に樹木はあまり見られず、見晴らしの優れた場所であったようだ。

● 大正 11 年(長久手古戦場絵はがきより)



- ・石碑の横に松が植えられている。周辺に樹木はあまり見られない。石碑の周りが石垣に変わっている。
- ・背後の山並みが映っており、見晴らしの優れた場所であったようだ。

● 平成 28 年撮影



● 昭和 20 年代

(平成 20 年度長久手市郷土資料室特別展より)



- ・明治 43 年写真の松が枯れている。
- ・周りに樹木が見られない。

● 昭和 61 年

(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・石碑周りの樹木が繁茂し、石碑が見えにくくなっている。

- ・石碑が樹木で見えなくなっている。

【 庄九郎塚 】

- 明治 43 年頃
(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・ 石碑入口前に松が植えられているだけで、周辺に樹木はあまり見られない。
- ・ 石碑内に松の幼木が見られる。
- ・ 勝入塚同様、見晴らしの優れた場所であったようだ。



- 平成 28 年撮影



- ・ 石碑内に多くの樹木が見られる。

- ・ 石碑周りの樹木が繁茂し、石碑が見えにくくなっている。

【武蔵塚】

- 明治 43 年頃
(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



・ 背後は山林となっている。

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



・ 明治 43 年頃とあまり変わっていない。

- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



・ 背後の山林が区画整理で無くなって、右側にフェンスが出来ている。

- 平成 28 年撮影



・ 背後にツバキの生垣が植えられている。
・ 樹木が繁茂し石碑が見えにくくなっている。



【御旗山】

- 明治 43 年頃
(「豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集」より 2010 年[樹林社])



- ・ 左上に大きな松の木がある。
- ・ 背後に山並みが見える。



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・ 背後は樹林となっている。



- 平成 28 年撮影



- ・ 樹間から遠くの景色がわずかに見える。

【首 塚】

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



・石碑周りもすっきりしており、石碑が良く見える。



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と
考古資料より)



・樹林が繁茂し、明和の碑が見えなくなっている。

- 平成 28 年撮影



・樹林が繁茂し、明和の碑が見えにくくなっている。

【色金山】

- 明治 43 年頃
(豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集より 2010 年[樹林社])



・周囲に樹木が見られず、開けた場所であったようだ。

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



- ・床机石や石碑の周りが石柵で囲まれている。
- ・周辺が開けている。

- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・床机石や石碑の周りが石柵で囲まれている。
- ・周辺が樹木で囲まれている。

色金山歴史公園整備にあたり、平成 7 年に現状変更の許可を経ている。

現状変更等の内容及び実施の方法
柵、石組等を撤去し、玉石縁石、植樹、及び史跡案内板を施す。
(市内部文書より)

- 平成 28 年撮影



- ・背後の樹木が繁茂し、閉塞感を感じる。

2. 指定に至る経緯

長久手古戦場は、史蹟名勝天然紀念物保存法第一条により昭和 14 年（1939）9 月 7 日に長久手古戦場及び御旗山、首塚、色金山が、以下の理由（説明）により国史跡に指定された。

- ・天正 12 年（1584）小牧・長久手の戦いの主戦場にして激戦地点であったと認められること。
- ・羽柴秀吉の先鋒池田信輝（恒興）、之助（庄九郎）父子・森長可と徳川家康軍が激戦したところ。
- ・字仏ヶ根に池田恒興、その南方の一段低い地点の字武蔵塚に池田庄九郎、その西方約二町（約 220m）同字地内に森長可の墓があり、いずれも明和 8 年（1771）12 月建設の石標及び各家子孫の建設による顕彰の石碑があること。
- ・字城屋敷は池田方陣地と伝えられ、鎧掛の松と呼ばれた老松があつたが枯損のため今は取り除かれていること。
- ・御旗山は、富士浦に高さ約 300 尺（約 90m）の独立の小山で眺望に富み、家康の牙旗を立てたところと伝えられ、頂上の富士社社殿の傍にその由来が記された石標があること。
- ・首塚は、大字岩作の人家に囲まれた中に石垣を組み、寛永 3 年（1626）4 月建設の石標、明治 43 年（1910）4 月建設の首塚碑があること。
- ・色金山は、首塚の北約 1 町（約 110m）安昌寺の後方にある丘陵であり、南西に激戦地を望め、丘上にある 3 個の自然石は床机石と呼ばれ、家康が戦況展望の際に床机にかえたるものと伝えられ、寛永 3 年（1626）建設の石標及び明治 43 年（1910）4 月建設の碑があること。

3. 指定の状況

(1) 指定告示等

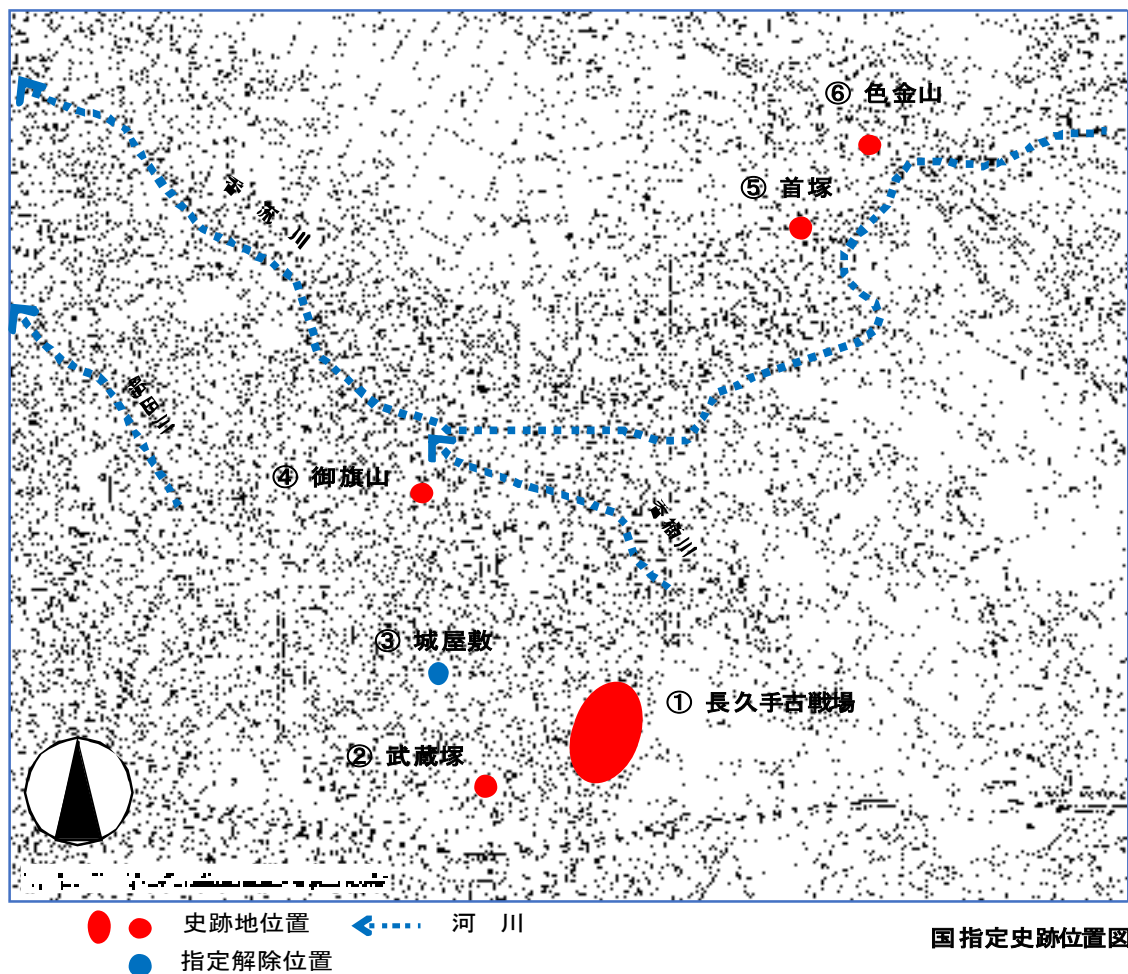
① 指定告示

昭和 14 年（1939）9 月 7 日、文部省告示第四百十号により、以下の箇所が史蹟名勝天然紀念物保存法第一条に依り第一類の史跡に指定された。

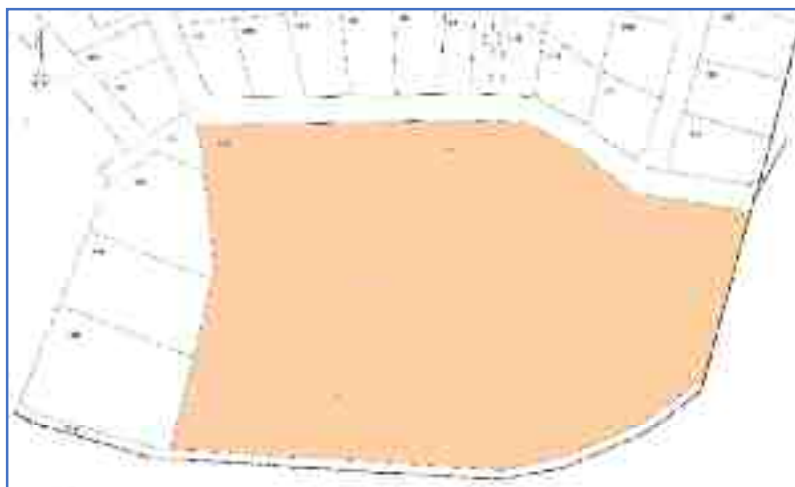
長久手古戦場	愛知県愛知郡長久手村大字長湫字佛ヶ根	五番、一二番、一九番	－①		
	同	字武蔵塚	四番ノ一、四番ノ二、五〇番	－②	
	同	字城屋敷	九〇番ノ一、九〇番ノ二	－③	
附 御旗山	同	字富士浦	四一番	富士社境内	－④
首 塚	同大字岩作字元門	四一番	－⑤		
色金山	同字色金	三七番ノ一、内實測七畝十五歩	－⑥		

※右側の○数字は下図の史跡地の位置を示す。

- ・その後、同字城屋敷 九〇番ノ一、九〇番ノ二（現在の血の池公園付近）は、土地開発により著しく改変があったとされ、昭和 40 年（1965）12 月 10 日付けで、文化財保護委員会告示第 66 号により指定を解除された。

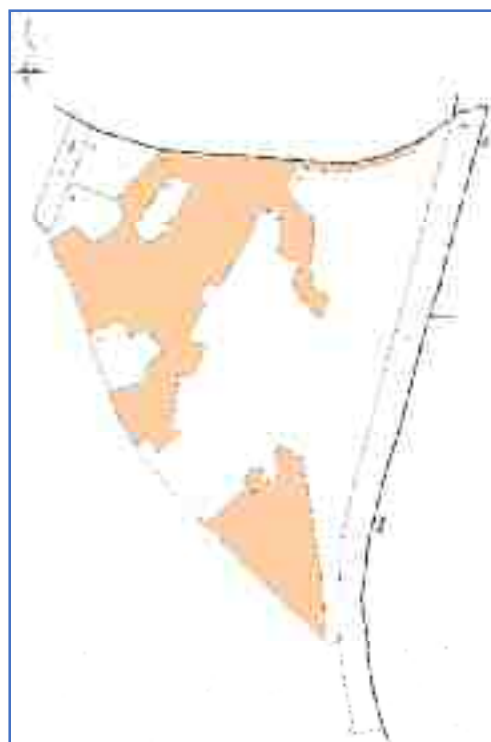


② 地籍図



●長久手古戦場
仏が根 1202 番

面積 : 8,436.00 m²



●長久手古戦場
武蔵塚 202 番、武蔵塚 205 番

面積 : 6,112.54 m² (武蔵塚 202 番)
2,022.88 m² (武蔵塚 205 番)



●長久手古戦場
武蔵塚 620 番、武蔵塚 622 番

面積 : 307.00 m² (武蔵塚 620 番)
16.52 m² (武蔵塚 622 番)

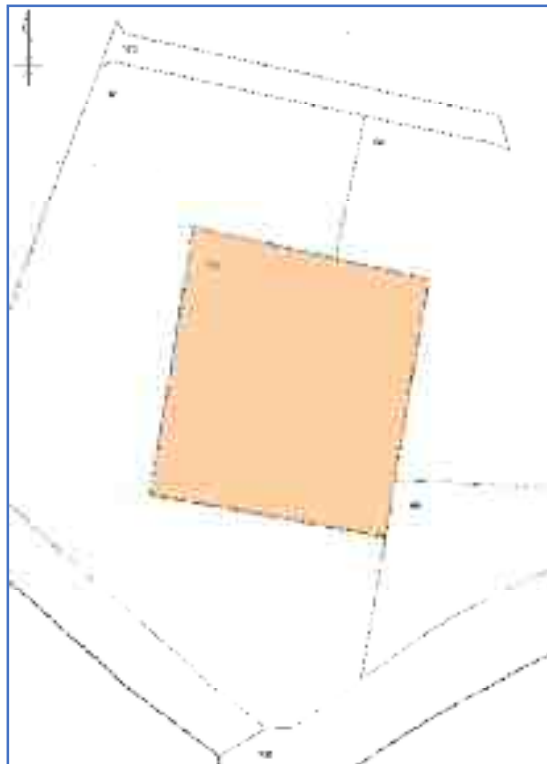
●長久手古戦場
武蔵塚 906 番

面積 : 2,558.29 m²



●附 御旗山
富士浦 602 番

面積 : 2,791.00 m²



●附 首 塚
岩作元門 41 番

面積 : 42.00 m²



●附 色金山
岩作色金 37 番 1 の一部

面積 : 743.80 m²



(2) 指定解説文

昭和 14 年（1939）9 月 7 日文部省告示第四百十号による国指定史跡の事由及び保存の要件は以下の通りである。

指定の事由	史蹟の部第四及第三ニ依ル(当時は、史跡を史蹟として表示)
保存の要件	碑石ノ毀損及破壊ヲ為サザルコト 樹木ノ伐採及栽植ニ當リテハ十分注意スルコト

※史蹟の部第四及第三とは、

- ・ 第四（古城跡、城砦、防塁、古戦場、国郡庁跡其の他政治軍事に關係の深き史跡）
- ・ 第三（古墳及著名なる人物の墓並碑）

長久手古戦場史跡指定書（その 1）

種別	史蹟	所在地	指定年月日
長久手古戦場	長久手村	愛知県長久手町	昭和十四年九月七日
事由	長久手古戦場は、徳川家康と豊臣秀頼との戦いである。この戦いは、長久手村の南に位置する。戦いの結果、徳川家康が勝利し、豊臣秀頼は逃亡した。この戦いは、長久手村の歴史を形作る重要な出来事である。		
保存の要件	この史蹟は、長久手村の歴史を伝える重要なものである。そのため、この史蹟の保存は、長久手村の歴史を伝える重要なものである。この史蹟の保存は、長久手村の歴史を伝える重要なものである。		

長久手古戦場史跡指定書（その 2）

種別	史蹟	所在地	指定年月日
長久手古戦場	長久手村	愛知県長久手町	昭和十四年九月七日
事由	長久手古戦場は、徳川家康と豊臣秀頼との戦いである。この戦いは、長久手村の南に位置する。戦いの結果、徳川家康が勝利し、豊臣秀頼は逃亡した。この戦いは、長久手村の歴史を形作る重要な出来事である。		
保存の要件	この史蹟は、長久手村の歴史を伝える重要なものである。そのため、この史蹟の保存は、長久手村の歴史を伝える重要なものである。この史蹟の保存は、長久手村の歴史を伝える重要なものである。		

長久手古戦場史跡指定書（その3）

解説（文化庁 国指定文化財等データベースより）

天正十二年小牧戦役中ノ主戦地ニシテ其ノ激戦地點ト認メラルベキハ長久手聚落ノ中心ヨリ西南方ニ亘レル丘陵地帯ナリ俚人佛ヶ根ト總称ス 同年四月九日羽柴秀吉ノ先鋒池田信輝其ノ子之助及森長可^{徳川}川家康ノ軍ト激戦セシ處ニシテ字佛ヶ根ニハ池田信輝其ノ南方一段低キ地點字武藏塚ニハ池田之助又其ノ西方約ニ町ヲ距テタル同字地内ニハ森長可ノ墓地アリ何レモ明和八年十二月建設ノ石標及各家子孫ノ建設ニ係レル顯彰ノ碑石アリ 字城屋敷ハ池田方陣地ト傳ヘラレ近年迄鎧掛松ト呼バレタル老松アリシガ枯損ノ為今取除カル御旗山ハ字富士浦ニアリ高約三百尺ノ獨立ノ小山ニシテ頗ル展望ニ富メリ 頂上ニ村社富士社ノ社殿アリ 家康牙旗ヲ立テタル處ト傳ヘラル 社殿ノ傍ニハ其ノ由來ヲ記セル石標アリ 首塚ハ大字岩作字元門縣道ノ北側人家ニ圍マレタル中ニアリ高三尺東西十六尺、南北二十尺略方形ニ石垣ヲ組ミ中ニ寶永三年四月建設ノ首塚ト記セル石標及明治四十三年四月建設ノ首塚碑アリ塚ハ高五尺バカリ上ニ松槭^ノノ樹木繁茂セリ

色金山ハ首塚ノ北約一町安昌寺ノ後方ニアル丘陵ニシテ南西ノ間ニ激戦地點ヲ望見シ得ラル 丘上ニアアル三個ノ自然石ハ古来牀几岩ト呼バレ家康戦況展望ノ際牀几ニ代ヘタルモノト傳ヘラル 傍ニ寶永三年建設ノ御牀机石ト記セル石標及明治四十三年四月建設ノ胡牀石記ト題スル碑アリ

(3) 指定地の状況

① 所在地と面積

史跡長久手古戦場の住所・地目・面積については、以下の通りである。(面積は、登記簿面積)

名 称	指定時住所	住所	地目	地積 (㎡)
長久手古戦場	字佛ヶ根12	武蔵塚202番	雑種地	6,112.54
	字佛ヶ根5	武蔵塚205番	雑種地	2,022.88
	字佛ヶ根19	仏が根1202番	雑種地	8,436.00
	字武蔵塚4-1	武蔵塚620番	雑種地	307.00
	字武蔵塚4-2	武蔵塚622番	雑種地	16.52
	字武蔵塚50	武蔵塚906番	雑種地	2,558.29
附 御旗山	字富士浦41	富士浦602番	境内地	2,791.00
附 首 塚	岩作元門41	岩作元門41番	原 野	42.00
附 色金山	岩作色金37番1の一部	岩作色金37番1の一部	山 林	743.80

② 現況管理体制

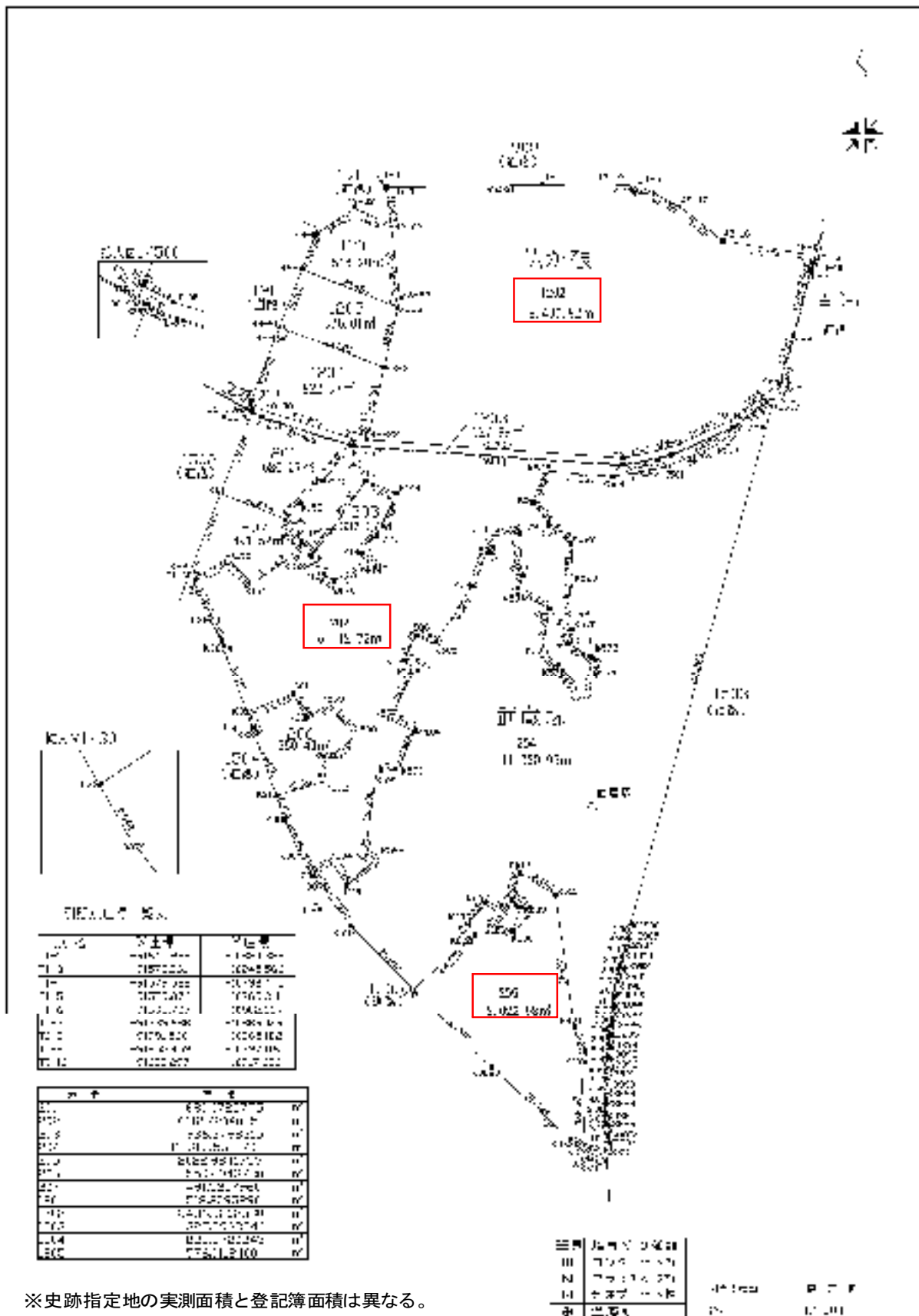
土地所有・管理については、以下の通りである。

名称	住所	所有者	管理者
長久手古戦場	武蔵塚 202 番外 5 筆	長久手市	長久手市
附 御旗山	富士浦 602 番	富士社	境内地として長湫区が管理
附 首塚	岩作元門 41 番	石作神社	長久手市※
附 色金山	岩作色金 37 番 1 の一部	石作神社	長久手市

※地元有志

③ 指定範圍

指定範囲（史跡長久手古戦場／長久手古戦場）の確定図



云从于市瓦廠塔地内

比例尺 1:50,000

地质年代		地质年代		地质年代		地质年代	
地质年代	地质年代	地质年代	地质年代	地质年代	地质年代	地质年代	地质年代
1. 震旦系	2. 寒武系	3. 奥陶系	4. 志留系	5. 泥盆系	6. 石炭系	7. 二叠系	8. 三叠系
9. 侏罗系	10. 白垩系	11. 古近系	12. 新近系	13. 第四系	14. 全新世	15. 全新世	16. 全新世

地质部地质研究所编

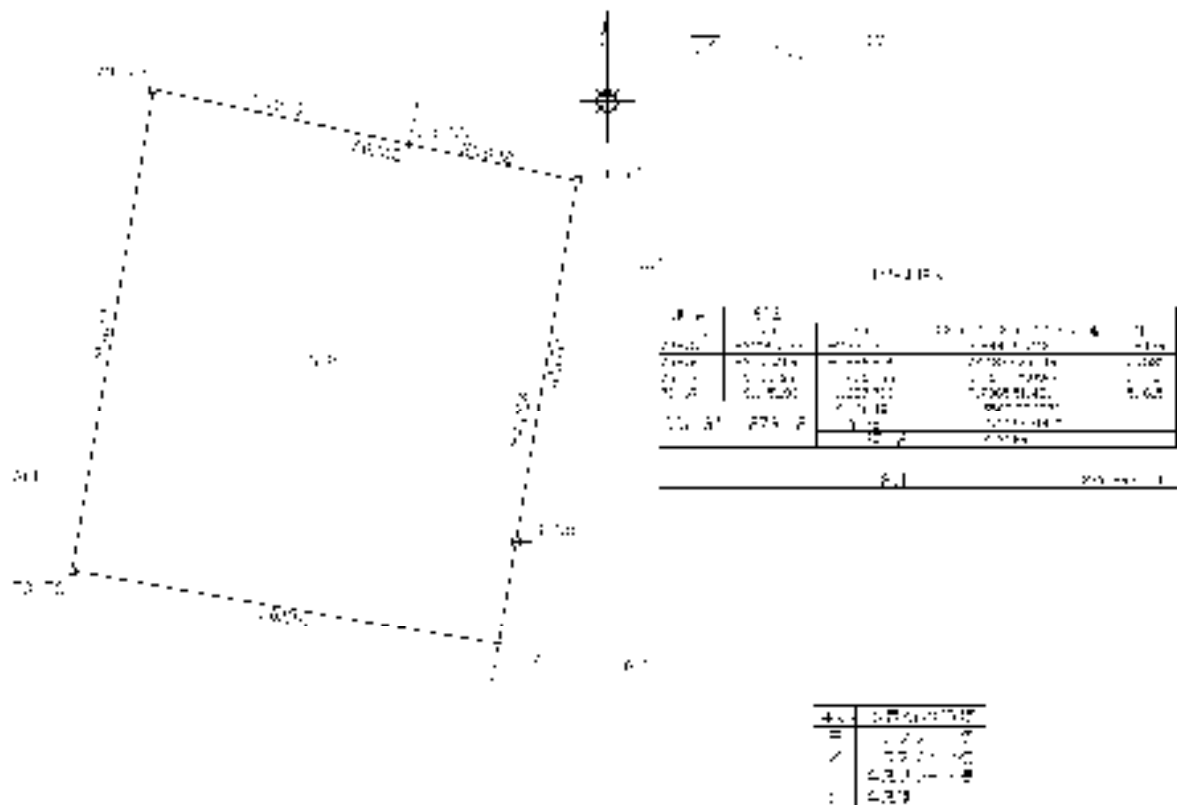
The drawing shows a rectangular plot with dimensions 100m by 100m. The plot is divided into four quadrants by a dashed line. The dimensions are labeled as follows:

- Top-left quadrant: 50m by 50m
- Top-right quadrant: 50m by 50m
- Bottom-left quadrant: 50m by 50m
- Bottom-right quadrant: 50m by 50m

A table of data is located in the bottom right corner of the drawing area.

NO	NAME	AGE	SEX	REL	STATUS
1	1001	100	M	100	100
2	1002	100	F	100	100
3	1003	100	M	100	100
4	1004	100	F	100	100
5	1005	100	M	100	100
6	1006	100	F	100	100
7	1007	100	M	100	100
8	1008	100	F	100	100
9	1009	100	M	100	100
10	1010	100	F	100	100

指定範囲（附 御旗山）の確定図



指定範囲（附 首塚）の確定図

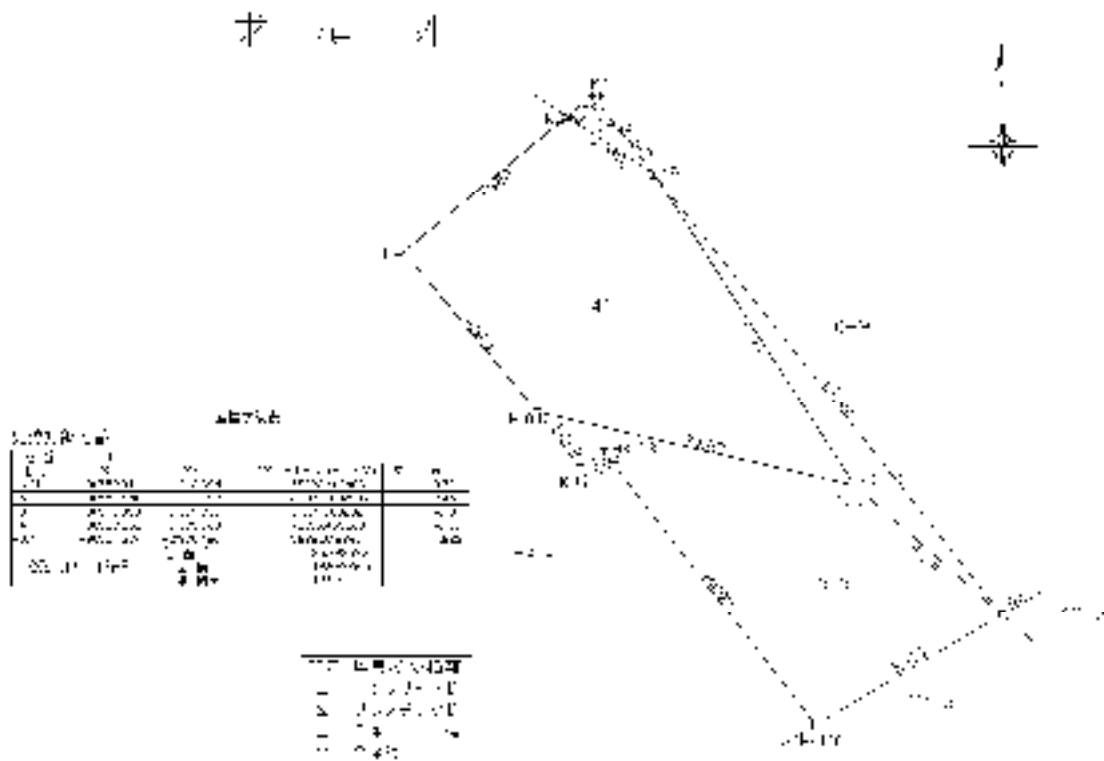


Figure 1 consists of two maps. Map A shows the location of the study site (A) within the context of the surrounding area, including the city of Tokyo and the surrounding sea. Map B shows the distribution of the study species (B) within the study area, with various points marked and labeled.

(4) 指定地の現況

① 地 形

現況地形は、指定当初から改変等は概ね行われていないと考えられ、明治・大正時代の地形図と比較しても、特徴的な南西から北東へ向かう尾根は現在も残されている。

隣接する「古戦場公園」の地形を見ると、史跡境界線から外側が造成されているのがわかり、指定地への影響を避けた造成が行われたと考えられる。



図 - 現況地形図 (H28 調査)

現在の地形（前頁参照）と「古戦場公園」が建設された当時の地形を比較してみると、史跡範囲内での、地形の改変は見られない。



図 - 昭和 62 年 (1987) 遊歩道整備位置図

【勝入塚周辺の地形】



①勝入塚から北方向の園路



②北東角から見た長久手古戦場の地形



③北東樹林から見た勝入塚



④勝入塚東から見た樹林地

【庄九郎塚周辺の地形】



⑥谷地形（右側が史跡地）

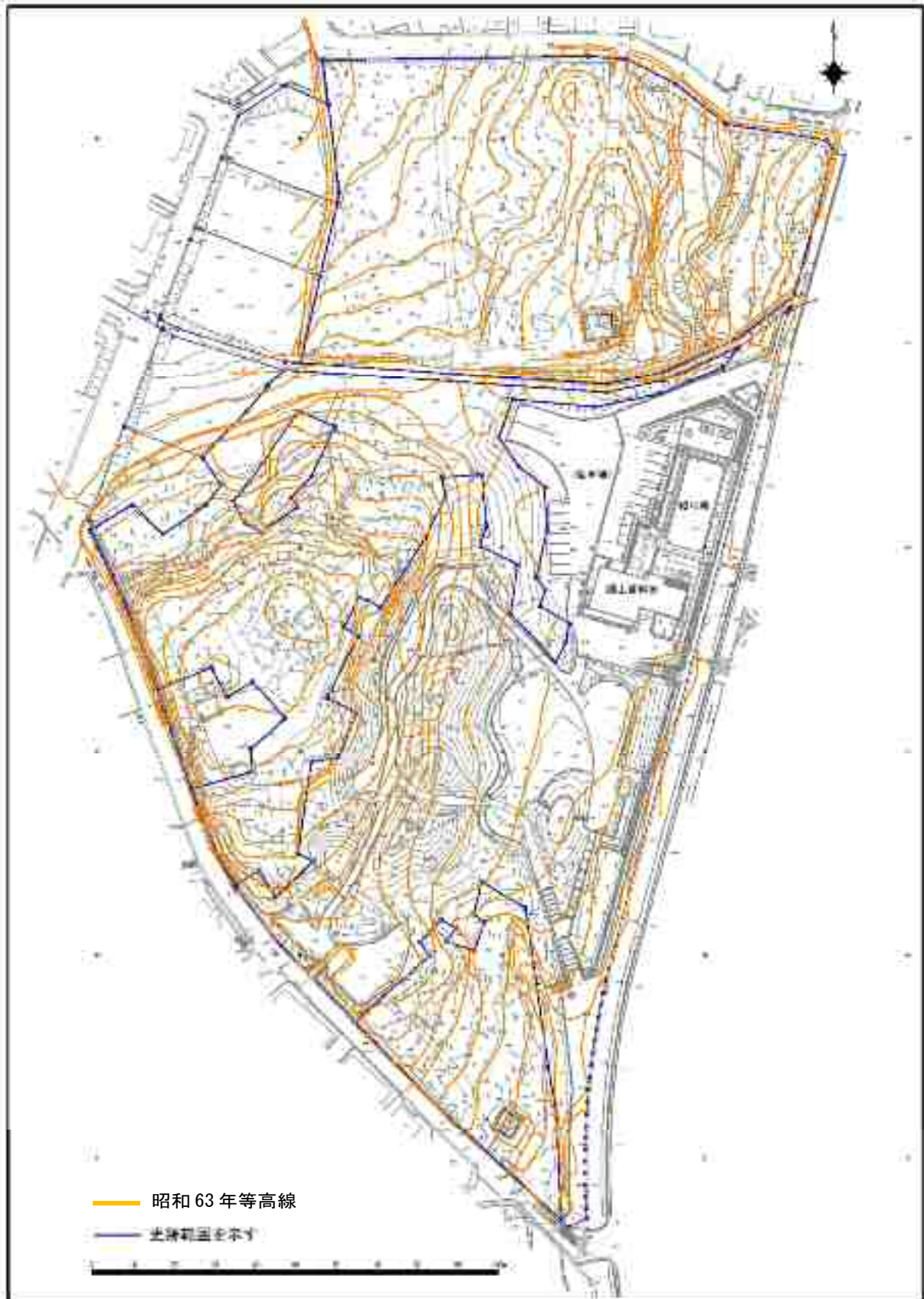


⑦中央の樹林地の奥に庄九郎塚がある



⑤勝入塚西側の赤松と桜が生育する斜面地

平成 28 年調査現況地形図と昭和 62 年地形図の合せ図を比較してみると、古戦場公園の庭園（縮景）と芝生広場の地形が大きく変わっているのがわかる。史跡地内での改変はあまり見られない。



② 現況植生

現況植生は、指定地に隣接する「古戦場公園」及び公園内の市所有の未指定地と一体的に見えることから、区域全体を調査した。

	は針葉樹		は常緑樹
	は落葉樹		はサクラ類
	幼木等がフシユ状になっている箇所		

1. 構成種

絵図等に見られるクロマツ（81本）、アカマツ（42本）があり、その他にコナラ（105本）、ヒサカキ（197本）、ネズミモチ（89本）、イロハモミジ（73本）、ハゼノキ（64本）、カクレミノ（44本）、クロガネモチ（35本）、園芸種であるソメイヨシノ（361本）が主要なものである。

低木では、サツキツツジが多く、次いでヒラドツツジ、カンツバキ、ドウダンツツジで、これらは公園内に植栽されたものである。

草本類は樹木が成長して下層に日が当たらないためかネザサが一部に見られる程度である。

2. 樹木の特徴

合戦時もあったと考えられるクロマツやアカマツ、コナラ、ヒサカキなども見られ、合戦時の風景が感じられる。

また、ソメイヨシノが多く植えられている。

3. 樹木の状態

松類は、防虫対策等の管理も見られるが、松枯れも見られた。最も多く植えられているソメイヨシノは老木化が見られ腐朽しているものもある。

全体的に生育は良いが、下枝が伸び、見通しを悪くしたりしている場所も多い。

もっとも大きな問題は、石碑周りに成長した樹木である。根茎が石碑に影響を与えないようにすることや、落枝による損傷を防ぐなどの丁寧な管理が必要である。

樹種名	本数	単位	代表的な樹木の大きさ				備考
			H	C	本立	W	
アカマツ	42	本	120	1.60		4.0	
アカメグサ	16	本	5.0	1.51		6.0	
アジサイ	1	箇所	1.2			1.3	
アズキナシ	3	本	7.0	0.62		3.0	
アベマキ	3	本	17.0	1.58		15.0	
アベリア	3	箇所	1.0			0.7	
アラカシ	21	本	7.5	1.75	6	5.5	
イチョウ	8	本	8.0	1.12		4.5	
イヌツゲ	6	本	2.0			3.5	
イボタノキ	4	本	3.0	0.70	7	3.5	
イロハモミジ	73	本	8.0	1.30		7.0	
ウメ	14	本	6.0	0.95		6.0	
エゴノキ	1	本	7.0	0.60		4.0	
エノキ	31	本	11.0	1.18		6.0	
カイズカイブキ	1	本	3.0			1.1	
カキノキ	9	本	6.0	1.08		7.0	
カクレミノ	44	本	7.0	0.97	3	3.5	
ガマズミ	1	本	1.5			1.0	
カマツカ	1	本	4.0	0.25	2	3.0	
カンツバキ	7	箇所	0.5			0.5	
キリシマツツジ	1	箇所	0.6			0.7	
キンモクセイ	17	本	3.5	1.05	6	2.5	
クサギ	1	本	5.0	0.35		4.5	
クスノキ	1	本	7.0	1.95	3	8.0	
クナナシ	1	箇所	0.8			0.7	
クスギ	1	本	13.0	1.30		6.5	
クロガネモチ	35	本	9.0	1.51		6.5	
クロマツ	81	本	16.0	2.10	2	6.5	
ケヤキ	4	本	8.0	4.70	3	12.0	
枯死	1	本	11.0	0.90		6.0	
コナラ	105	本	15.0	3.70		25.0	
コマユミ	1	本	2.0			3.0	
サカキ	7	本	7.0	0.51		6.0	
ササノカ	4	本	2.5	0.50		1.2	
サツキツツジ	42	箇所	0.7			0.5	
サトザクラ	1	本	4.0	0.67		3.0	
サルスベリ	18	本	8.0	0.80		4.0	
サンゴジュ	2	本	5.0	0.89	4	3.0	
シダレザクラ	6	本	9.0	0.65		7.0	
シヤンパンボ	8	本	5.5	1.12	6	6.0	
樹林：ヒサカキ・ハゼノキ・ネズミモチ・クロガネモチ・アカメグサ・ソメイヨシノ・クロマツ・カクレミノ・シヤンパンボ・アラカシ・サカキ							
シュロ	2	本	6.0	0.40		2.5	
シラカシ	10	本	10.0	1.57		8.5	
シンジュ	6	本	12.0	1.42		8.0	
ソメイヨシノ	361	本	8.5	2.90		7.5	
タブノキ	3	本	8.0	1.26		6.0	
タマフキ	3	箇所	0.6			0.8	
タンナサワフタギ	2	本	4.0	0.49	5	3.0	
チャノキ	3	箇所	2.0			1.6	
テイカカズラ	1	本	0.6			0.5	
ドウダンツツジ	6	箇所	1.0			0.5	
ニシキギ	1	本	2.0			2.0	
ネザサ	2	箇所					
ネズミモチ	89	本	5.0	0.84	4	5.0	
ハレバクシン	5	箇所	1.0			2.0	
ハゼノキ	64	本	4.0	0.77	2	3.5	
ハリギリ	2	本	8.0	0.75		3.5	
ハンノキ	1	本	8.0	0.64		2.5	
ヒサカキ	197	本	4.0	1.50		2.5	
ヒトツバゴ	4	本	6.0	0.80		7.0	H=0.6で計測
ヒノキ	5	本	14.0	1.68		65.0	
ヒヤドリタナ	1	本	9.0	1.16		6.0	
ヒラドツツジ	15	箇所	1.7			0.9	
マサキ	2	本	2.5			2.5	
マメツゲ	1	箇所	0.5			0.4	
マユミ	1	本	2.0	0.14	2	2.0	
マンリョウ	2	箇所	0.7			0.5	
ミツツツジ	2	箇所	0.6			0.5	
ムクノキ	24	本	15.0	1.68		15.0	
ムラサキシキブ	17	本	2.5	1.00		2.0	
モチノキ	11	本	6.5	0.86		5.5	H=0.6で計測
モッコク	1	本	6.0	0.70		5.0	
ヤブツバキ	4	本	5.0	0.42		4.0	
ヤマグサ	4	本	8.5	0.63		6.0	
ヤマザクラ	1	本	4.5	0.48		3.5	
ヤマツツジ	1	箇所	1.5			0.8	
ユキヤナギ	2	箇所	1.5			1.0	
77種の樹種がある。高木等の独立木が1,385本、群とになっているものが98箇所ある。							

図 - 現況樹木リスト
(H28 調査)

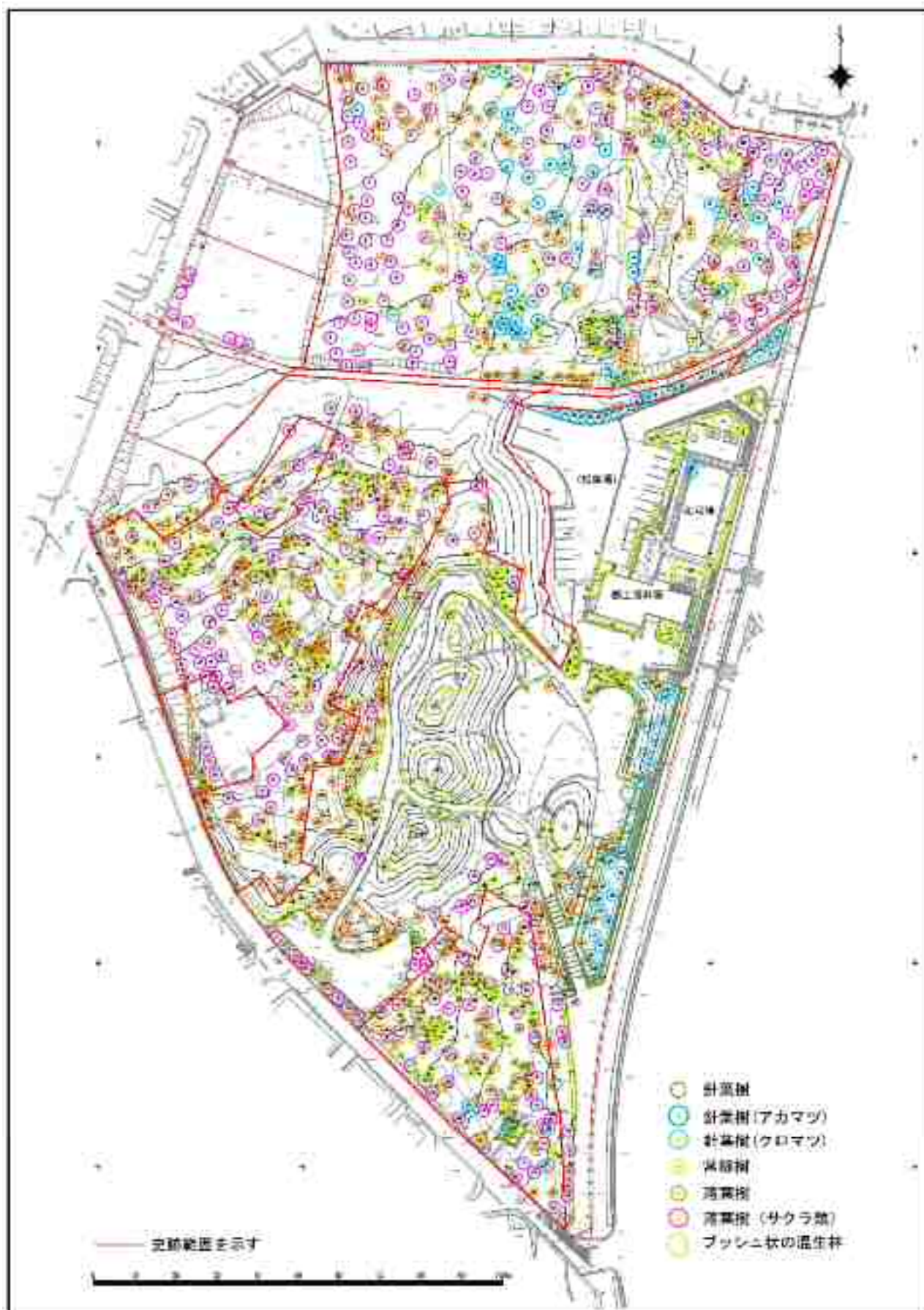


図 - 現況植生図 (H28 調査)



図 - 勝入塚の現況植生 (H28 調査)

番号	樹種名	H	C	本立	W	本数	単位	備考
435	クロマツ	8.0	0.82		2.0	1	本	
436	ヒサカキ	1.2			0.5	1	本	
437	ヒサカキ	1.1			0.5	1	本	
438	サツキツツジ	0.3			0.5	1	株	
439	サツキツツジ	0.5			0.2	1	株	
440	イロハモミジ	3.5	0.41		2.5	1	本	
441	ヤマザクラ	4.5	0.48		3.5	1	本	
442	サツキツツジ	0.6			0.6	1	株	
443	ヒサカキ	1.0			0.6	1	本	
444	クロマツ	7.0	0.84		1.5	1	本	
445	ヒノキ	8.5	1.47	2	4.0	1	本	
446	ヒサカキ	3.0	0.42		2.0	1	本	
447	ヒサカキ	3.0	0.28	6	2.0	1	本	
448	ハゼノキ	0.5	0.20		1.5	1	本	
449	ヒサカキ	3.0	0.21		1.5	1	本	
450	イヌツゲ	1.4			0.6	1	本	
451	イロハモミジ	3.0	0.42		2.5	1	本	C=0.4で計測
452	ヒサカキ	2.5	0.17	3	1.0	1	本	
453	ヒサカキ	1.5	0.11	3	1.0	1	本	
454	ヒサカキ	2.0	0.10		1.0	1	本	
455	ヒサカキ	2.0	0.13	2	0.6	1	本	
456	ヒサカキ	2.0	0.08		0.5	1	本	
457	ヒサカキ	3.0	0.18	2	1.3	1	本	
458	アカマツ	12.0	1.60		4.0	1	本	
459	ヒサカキ	4.0	0.46		1.8	1	本	
460	ソメイヨシノ	4.5	0.40		3.5	1	本	

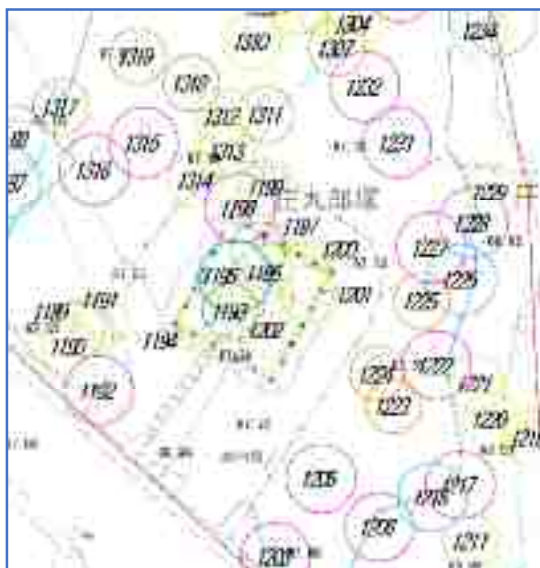


図 - 庄九郎塚の現況植生 (H28 調査)

番号	樹種名	H	C	本立	W	本数	単位	備考
1193	ヒノキ	14.0	1.68		6.5	1	本	
1194	ヒサカキ	4.0	0.55	2	5.0	1	本	
1195	アカマツ	13.0	1.32		9.0	1	本	
1196	モッコク	6.0	0.70		5.0	1	本	
1197	ヒノキ	13.0	0.94		4.0	1	本	
1198	ソメイヨシノ	11.0	0.66		7.0	1	本	
1199	シャシヤンボ	5.5	1.12	6	6.0	1	本	
1200	ヒサカキ	4.0	0.23		3.0	1	本	
1201	ヒサカキ	3.5	0.42		3.0	1	本	
1202	ヒサカキ	3.5	0.46	2	3.0	1	本	

③ 現況土地利用

長久手古戦場は、隣接する「古戦場公園」と土地利用上や機能面でも密接に関わっている。古戦場公園内の「長久手市郷土資料室」は、史跡のガイダンス機能的な役割としても利用されている。駐車場は、郷土資料室を含めた長久手古戦場野外活動施設や古戦場公園の利用者が使用している。



図 - 土地利用区分図 (H28 調査)

史跡見学や歴史学習等を目的とした来訪者は、「長久手市郷土資料室」で長久手合戦の史料やジオラマなどを見学した後、指定地内の石碑などを見学している。

また、指定地境界周りには柵等もなく、どこからでも入れる状態であり、周辺住民による日常の散策などの公園的利用もなされている。



図 - 現況動線図 (H28調査)

現況施設配置

※数字は現況施設一覧の番号を示す。

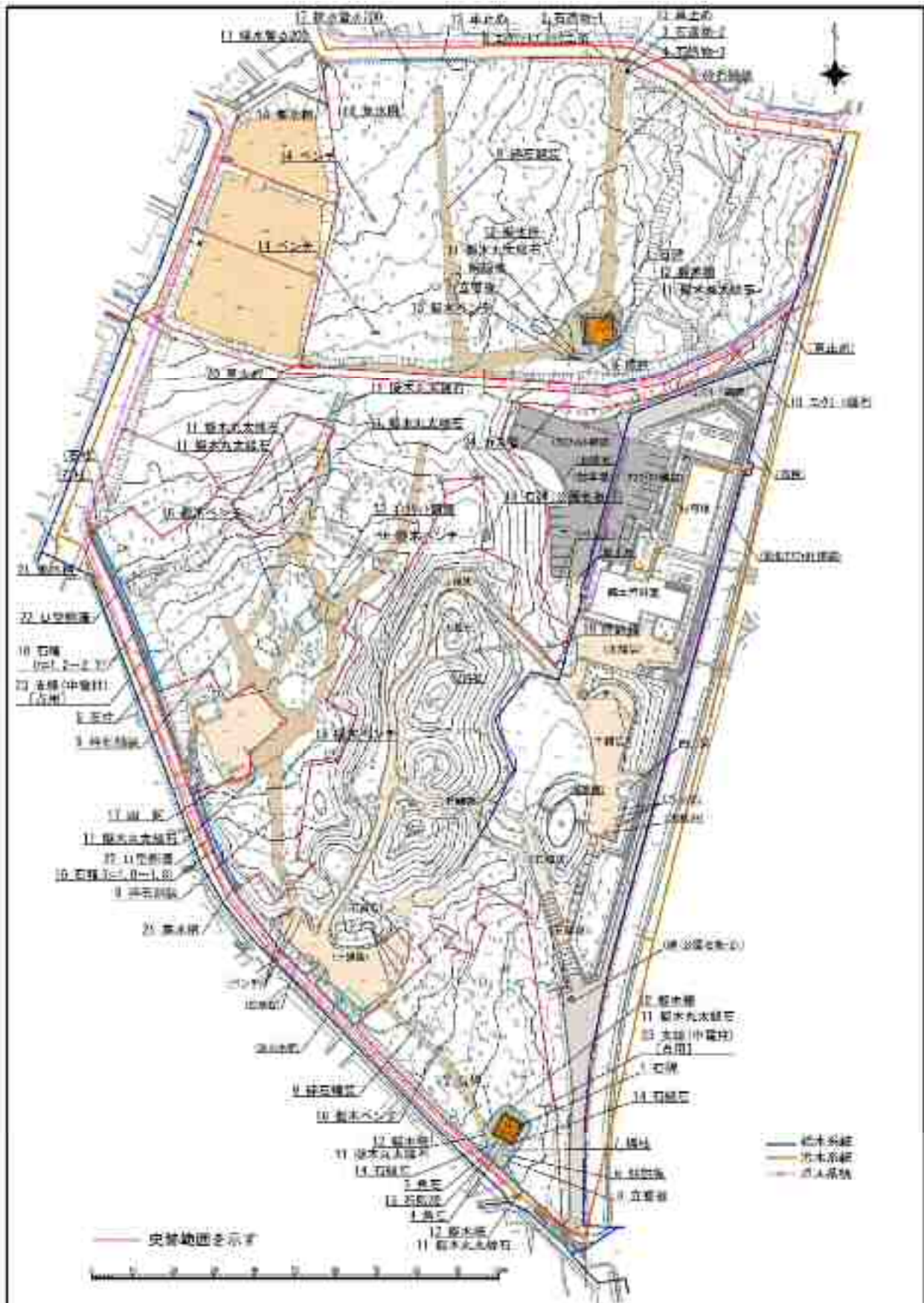


図 - 現況施設配置図 (H28 調査)

施設一覧

表 - 現況施設一覧 (H28 調査)

位置	番号	名 称	外寸(W×H×T),単位はcm	素材	数量	単位	備 考
勝入塚内		工作物					
	1	石碑	勝入塚	石製	1	式	記念碑
	2	石造物-1	37×44×30	花崗岩製	1	基	用途不明
	3	石造物-2	50～35×43×20	花崗岩製	1	基	用途不明
	4	石造物-3	32×50×30	花崗岩製	1	基	用途不明
	5	解説板	149×84、板(82×75)	SUS製	1	基	石碑解説
	6	標柱	□15×108	鋼製	1	基	
	7	立看板	可動式、24×40	木製	1	基	
	8	碎石舗装		碎石と土	735	m ²	面積は概数
	9	コンクリートブロック土留	5.5×60、h=9～80	コンクリート製	6.6	m	境界沿い土留め
	10	コンクリート縁石	□12	コンクリート製	60.0	m	舗装止め
	11	擬木丸太縁石	φ10	擬木製	41.8	m	散策路明示
	12	擬木柵	φ12、h=54	擬木製、チェーン付	41.8	m	散策路明示
	13	車止め	φ12.5、h=55	擬木製	43	基	不法駐車対策と進入防止
	14	ベンチ	40×197	合成木材製	2	基	内1基は地中埋没
	15	擬木ベンチ	座面:40×150、脚:φ28	擬木製	1	基	
		排水施設					
	16	集水樹	□80、グレーチング蓋	コンクリート製	2	基	
	17	排水管	φ20	塩化ビニール製	3	m	道路樹へ排水
●電気設備・給水設備・汚水設備、占用施設はない							

位置	番号	名 称	外寸(W×H×T),単位はcm	素材	数量	単位	備 考
庄九郎塚内		工作物					
	1	石碑	庄九郎塚	石製	1	式	記念碑
	2	石碑	柱:17×15、笠石:35×34	花崗岩製	1	基	
	3	角石	130～97×67×55	花崗岩製	1	基	門石
	4	角石	90×70×90	花崗岩製	1	基	門石
	5	石柱	□160、h=65(文字有)	花崗岩製	1	基	
	6	解説板	149×84、板(82×75)	SUS製	1	基	石碑解説
	7	標柱	□15×108	鋼製	1	基	
	8	立看板	可動式、24×40	木製	1	基	
	9	碎石舗装		碎石と土		m ²	面積は概数
	10	石積	h=210～100	間知石花崗岩製、谷積		m	
	11	擬木丸太縁石	φ10	擬木製		m	散策路明示、土留め
	12	擬木柵	φ12、h=54	擬木製、チェーン付		m	散策路明示
	13	コンクリート舗装	t=5平均	コンクリート製		m ²	
	14	石縁石	不定形	花崗岩等		m	
	15	石階段		花崗岩製	1	基	
	16	擬木ベンチ	座面:40×150、脚:φ28	擬木製	4	基	
	17	四阿	420×420	擬木製	1	基	一部が史跡内
	18	石碑(公園名板)	石柱:80×73、台座:220×210	花崗岩製	1	基	一部が史跡内
	19	時計塔	93×43	タイル、石材等	1	基	
	20	車止め	50×50	コンクリート製	2	基	
		排水施設		柱:鋼管φ180、屋根:ポリカ製			
	21	集水樹	□520	コンクリート製	2	基	
	22	U型側溝	U-180	コンクリート製		m	
		占用施設					
	23	支線(中部電力)			3	箇所	
	24	都市ガス管			3	m	郷土資料室へ
●電気設備、給水設備、汚水設備はない							

現況施設写真（H28 年撮影）

番号は施設一覧表の番号を示す。



[1 勝入塚]



[1 勝入塚 明治の碑]



[1 勝入塚 明和の碑]



[8 碎石舗装と 2・3・4 石造物]



[2 石造物-1]



[3・4 石造物-2, -3]



[5 解説板]



[6 標柱]



[7 立看板]



[11 擬木丸太縁石と 12 擬木柵]



[14・15 ベンチ]



[16 集水枡と 13 車止め]

現況施設写真（H28 年撮影）

番号は施設一覧表の番号を示す。



[1 庄九郎塚]



[1 庄九郎塚 明治の碑]



[1 庄九郎塚 明治の碑と明和の碑]



[1 庄九郎塚 石碑]



[2 勝道九兵衛の碑から見た庄九郎塚]



[2 勝道九兵衛の碑]



[3・4 角石と15石階段]



[5 石柱]



[史跡地外の石柱]



[6 解説板]



[7 標柱]



[8 立看板]



[9 碎石舗装と 11 擬木丸太縁石]



[10 石 積]



[11 擬木丸太縁石と 12 擬木柵]



[13 コンクリート舗装(アスチック遊具跡)]



[16 擬木ベンチ]



[17 四 阿]



[18 石碑(公園名板-1)]



[19 時計塔]



[23 支線(中部電力) 占用]

史跡地周辺の施設写真（H28 年撮影）【 古戦場公園 】



〔長久手市郷土資料室 案内図〕



〔長久手市郷土資料室〕



〔和弓場〕



〔1 階展示室〕



〔2 階展示室〕



〔庭園と芝生広場（縮景）〕





〔郷土資料室南側広場〕



〔庄九郎塚北西側広場〕



〔四阿周辺〕



〔古戦場公園南側歩行者入口〕
〔公園名板-2〕



〔古戦場公園東側入口〕



〔古戦場公園東側歩行者入口〕



〔古戦場公園東側外周〕



〔勝入塚南の里道（東側）〕

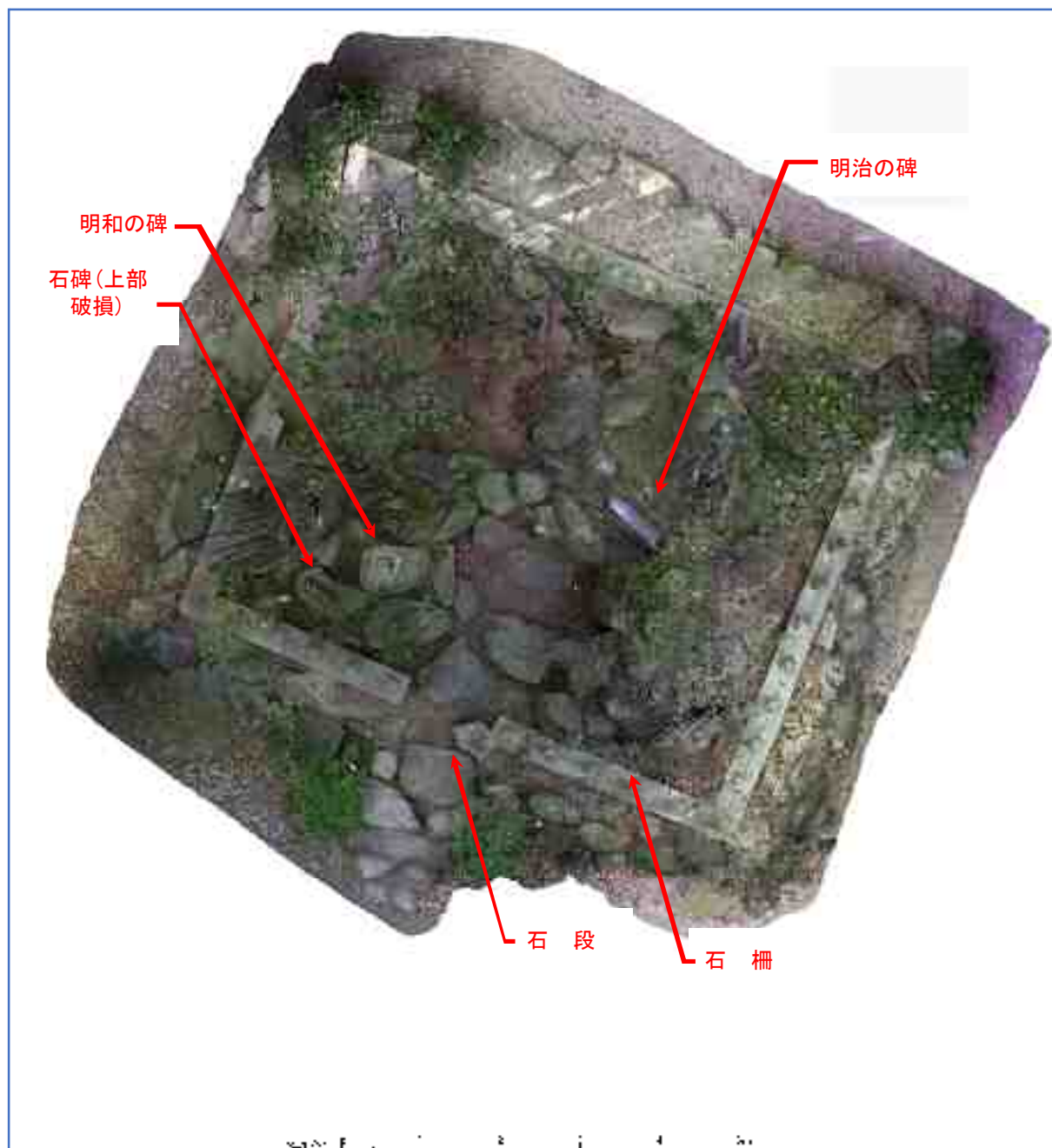


〔勝入塚南の里道（西側）〕



〔長久手古戦場西側隣接地（駐車場）〕

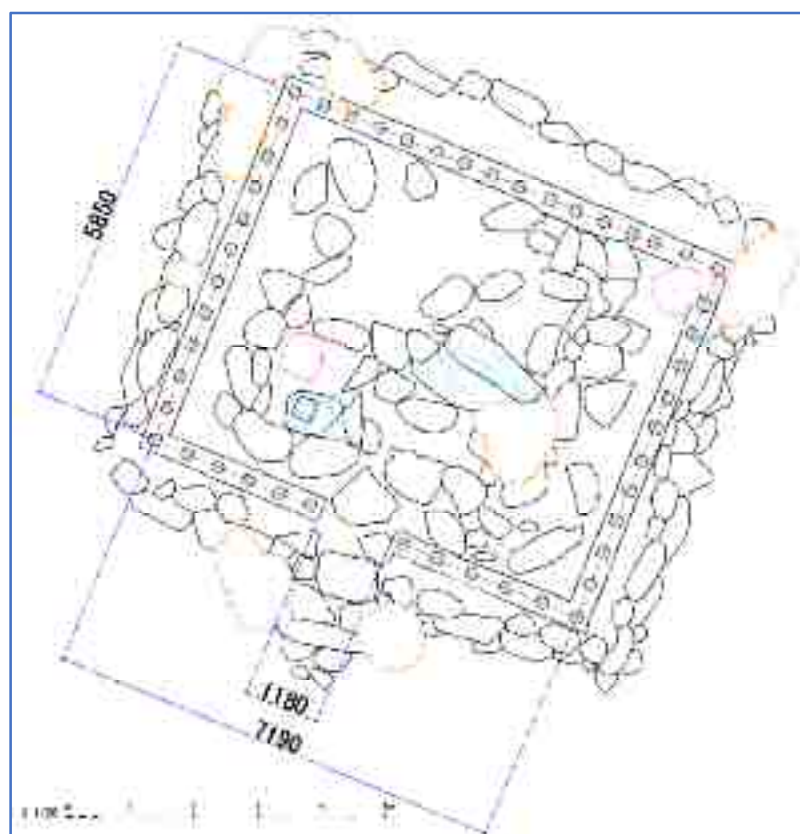
石碑の詳細調査（H28 年調査・写真撮影）【 勝入塚 】



〔勝入塚 オルソー平面〕

■ 施設の概要

名 称	建設年	規 模	単位	数量	備考
明和の碑	明和8年(1771) 建立	17.5cm×17.5cm、h=122cm(花崗岩)	基	1	
明治の碑	明治24年(1891)建立	170cm×35～90cm、h=202cm(安山岩)	基	1	
石碑(石柵内)	上部破損	不明	基	1	
石組面積	明治24年(1891)か	野面石	m ²	73.2	
石柵	明治24年(1891)か	花崗岩石柱28本(一部コンクリート補修)	m	24.7	



[平面図]



[正面]



[右側面]



[背面]



[左側面]

【 石碑／明和の碑 】



〔明和の碑 正面〕
高さ；122cm、花崗岩

刻銘

池田勝入信輝戦死場



〔明和の碑 背面〕

刻銘

明和八年辛卯十二月八日造
人見彌右衛門 家
赤林孫七郎 信之



〔明和の碑 右側面〕



〔明和の碑 左側面〕

【 石碑／明治の碑 】



〔明治の碑 正面〕
高さ；202cm、安山岩

刻銘

勝入池田公戦死場



〔明治の碑 背面〕

刻銘

勝入公諱信輝其子紀伊諱之助天正十二年四月
九日二公戰没干長湫先考確軒公其遺蹟或湮
滅也將立石誌之而場損館故不肖輝博續遺志而為
之云 明治二十四年七月 十六世孫池田輝博



〔明治の碑 右側面〕



〔明治の碑 左側面〕

【石柵】(15cm×15cm、H=1m、横鉄筋2段、延基礎;コンクリート製)



〔正面〕(全て花崗岩製、補修痕なし)



〔右側〕(3本花崗岩製、9本コンクリート製)



〔背面〕(全て花崗岩製、3本補修痕あり)



〔左側〕(全て花崗岩製、補修痕なし、
左から5本目文字刻込有)



〔西面のコンクリートによる作り変え状況〕



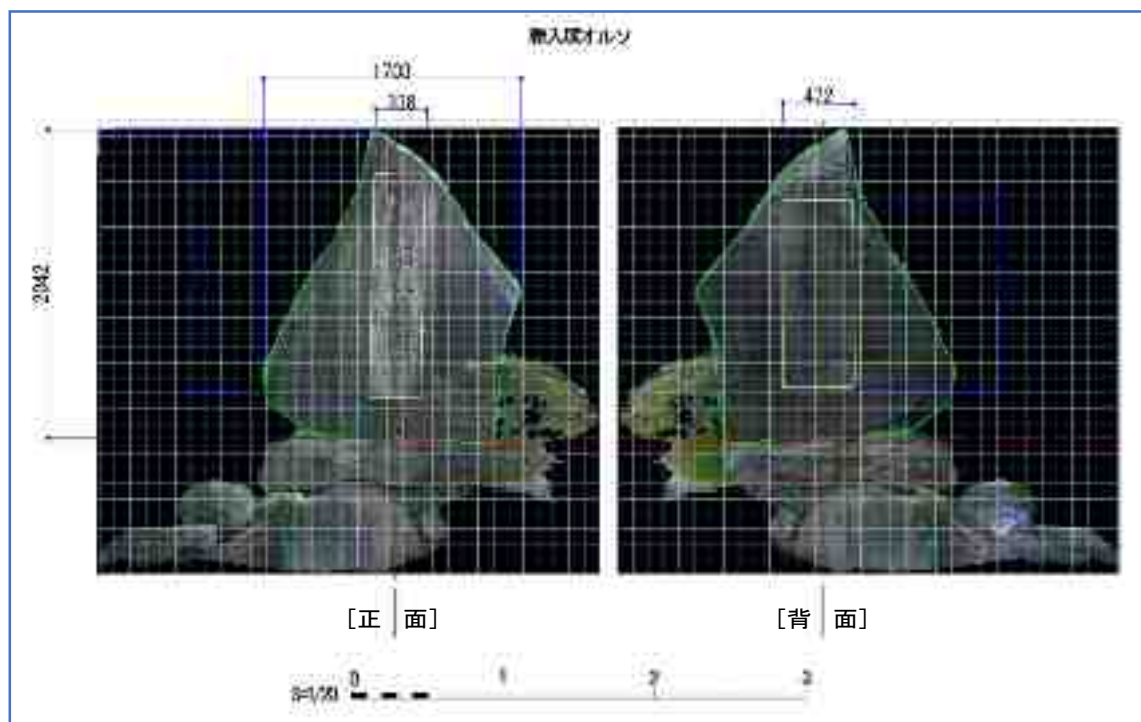
〔背面のコーキングによる修復状況〕



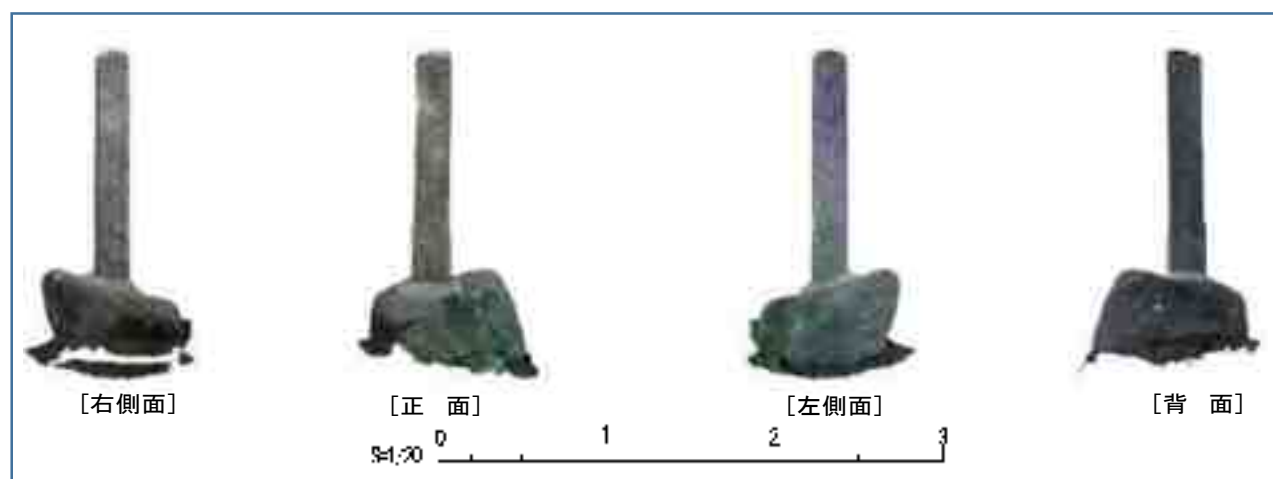
〔背面左角に赤松がくい込んだ石柱〕



〔左側の石柱に入れられた文字〕



[勝入塚 4方向オルソ立方面]



[明和の碑 4方向オルソ立方面]

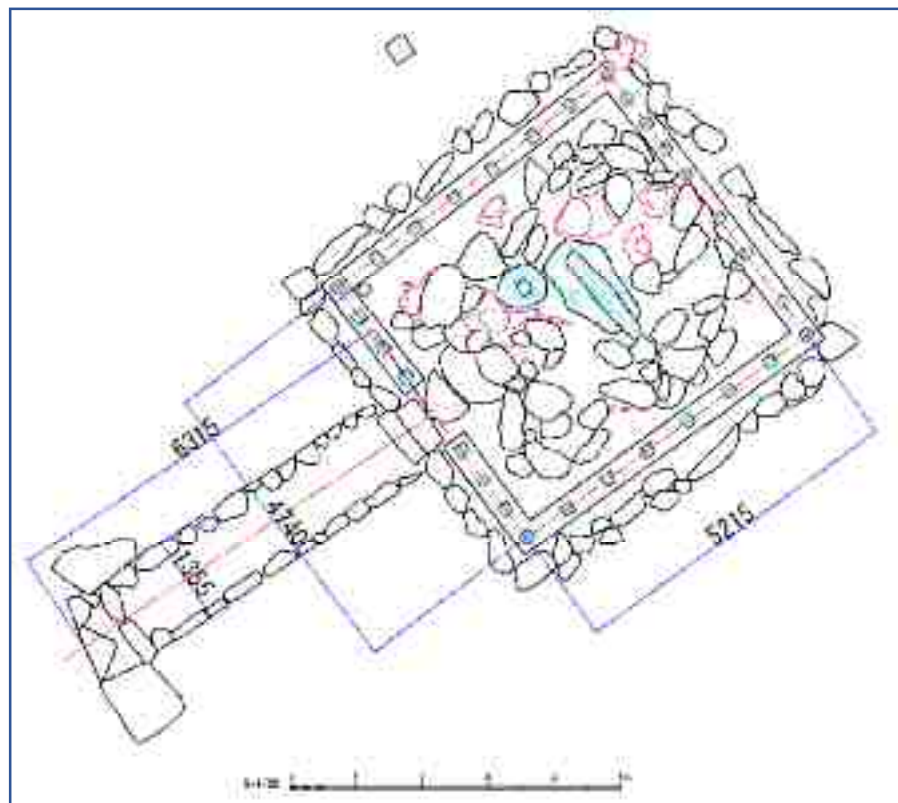
石碑の詳細調査（H28 年調査・写真撮影）【 庄九郎塚 】



〔庄九郎塚 オルソー平面〕

■ 施設の概要

名 称	建設年	規 模	単位	数量	備考
明和の碑	明和8年(1771) 建立	15cm×15cm、h=130cm(花崗岩)	基	1	
明治の碑	明治24年(1891) 建立	165cm×32cm、h=190cm(安山岩)	基	1	
勝道九兵衛の碑	昭和16年(1937) 建立	17cm×15cm、h=140cm(花崗岩)	基	1	
石碑(石柵内)	不明	16cm×16cm、h=44cm(花崗岩)	基	1	
石組面積	明治24年(1891)か	野面石	m ²	40.5	
石柵	明治24年(1891)か	花崗岩石柱28本(一部コンクリート補修)	m	19.0	



〔平面図〕



〔正面〕



〔右側面〕



〔背面〕



〔左側面〕

【 石碑／明和の碑 】



〔明和の碑 正面〕
高さ：130cm、花崗岩

刻銘

池田紀伊守之助戦死場



〔明和の碑 背面〕

刻銘

明和八年卯十二月八日造
人見彌右衛門 家
赤林孫七郎信之



〔明和の碑 右側面〕



〔明和の碑 左側面〕

【 石碑／明治の碑 】



〔明治の碑 正面〕
高さ：190cm、安山岩

刻銘

紀伊守池田公戦死
明治廿四年侯爵池田輝博建立



〔明治の碑 背面〕
(文字なし)



〔明治の碑 右側面〕



〔明治の碑 左側面〕

【 石碑／勝道九兵衛の碑 】



刻銘

勝道九兵衛秀胤討死二之墓



刻銘

池田一族天正十二年四月九日戦死

〔勝道九兵衛の碑 正面〕
高さ；104cm、花崗岩

〔勝道九兵衛の碑 右側面〕



刻銘

昭和十六年三月十一日
後継 遠藤萬六建立
西区江西町三ノ三四
名古屋市



刻銘

後援 長湫 山田銅一

〔勝道九兵衛の碑 背面〕

〔勝道九兵衛の碑 左側面〕

【 石碑／その他の碑 】



〔石柵内の碑〕

刻銘

侯爵 池田

※この碑は、字鴉ヶ廻間の山林にあつたが、区画整理事業のため、昭和57年、この地に移された。

【石柵】（15cm×15cm、H=1m、横鉄筋2段、延基礎、コンクリート製）



〔正面〕（全て花崗岩製、3本補修痕あり）



〔右側〕（8本花崗岩製、内2本コンクリート補修、4本コーキングによる補修痕あり）



〔左側〕（花崗岩製、1本コーキングによる補修痕あり）



〔背面〕（花崗岩製、内1本コンクリート補修、1本コーキングによる補修痕あり）

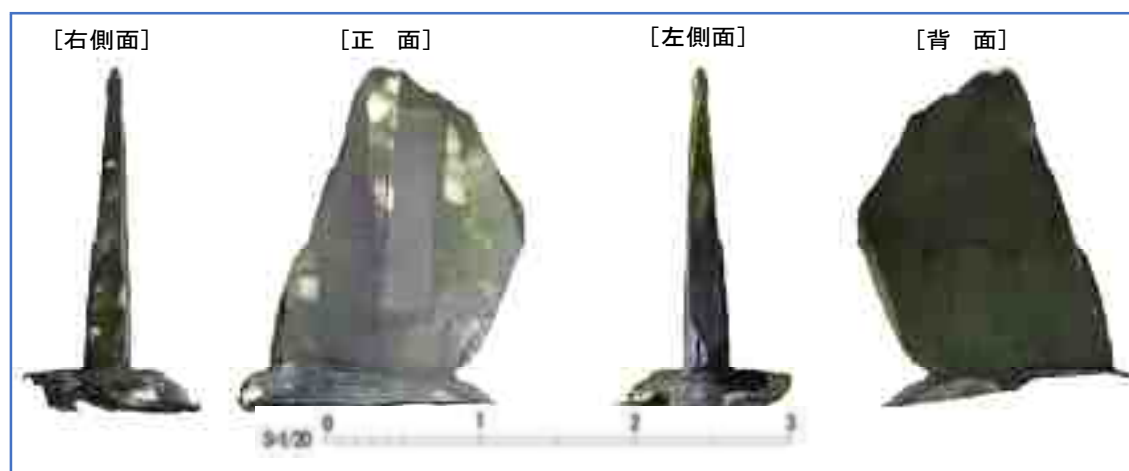
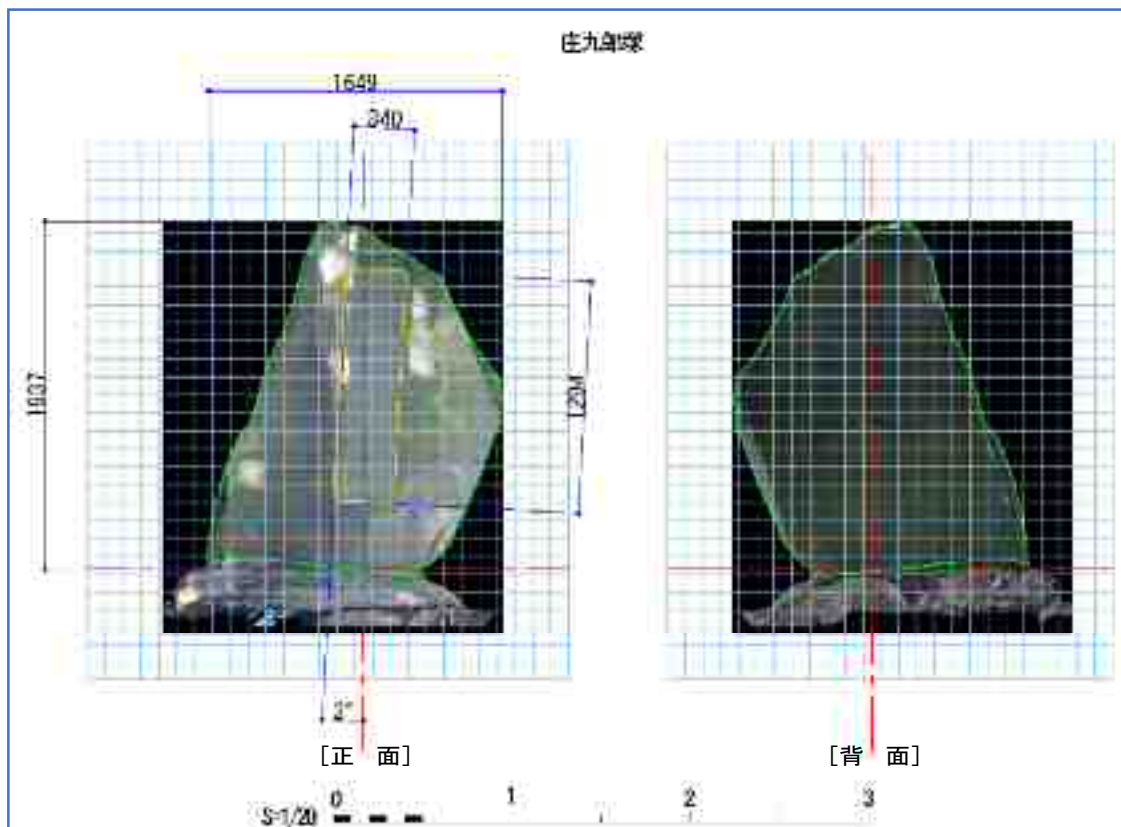


〔コンクリートによる補修〕

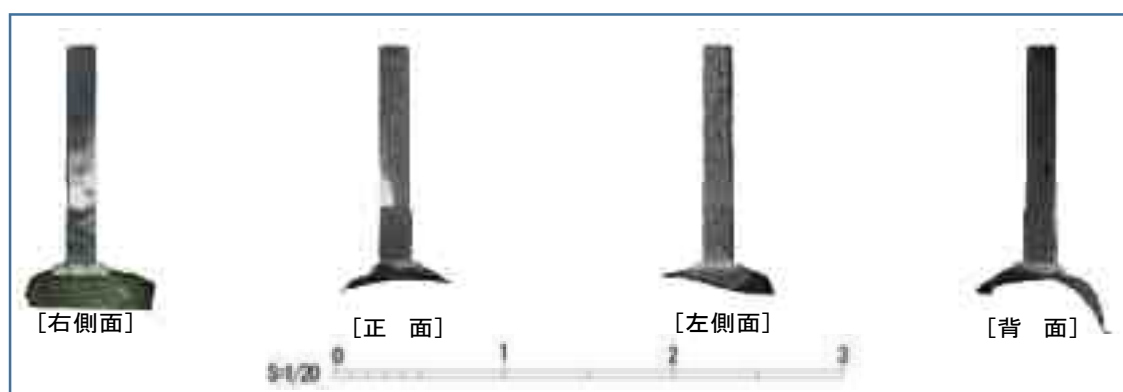


〔コーキングによる補修〕





[庄九郎塚 4方向オルソー立面]



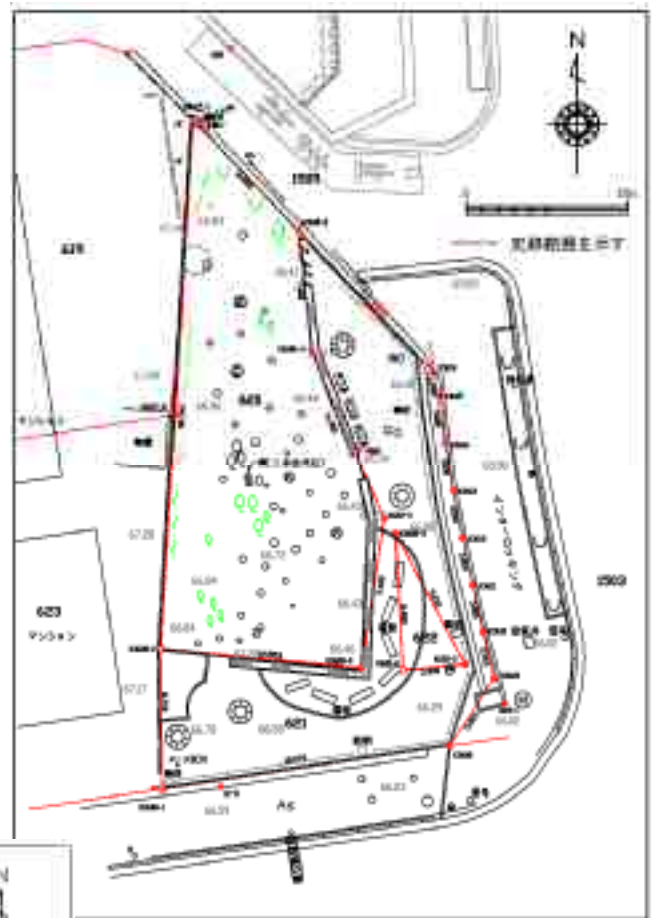
[明和の碑 4方向オルソー立面]

(4) 指定地の現況－2（長久手古戦場／武蔵塚 620 番・622 番）

① 地 形

平坦地に見えるが、西側の壁沿いがやや高く東側の歩道に向けて緩い傾斜がついている。

明治や大正時代の地形と比較すると、北側の北西に延びる道路は古くから大きく変わっていない。史跡地内の地形は、一部で周辺の道路の影響が造成されていると思われる。



② 現況植生



1. 構成樹種と特徴

高木は、ソメイヨシノとムクノキがあり、両方とも大木化している。中木はツゲ、低木はヒラドツツジやユキヤナギが植えられている。

ソメイヨシノは、腐朽菌に侵され腐ってきているものも見られる。ムクノキはよく成長し樹形も大きく、本史跡内の代表的な樹木である。

図 - 現況植生調査図(H29 調査)

	はサクラ類		は常緑樹
	は落葉樹		

樹 種 名	本数	単位	代表的な樹木の大きさ				備 考
			H	C	本立	W	
ソメイヨシノ	1	本	8.0	2.13		6.0	片枝で歩道にはみ出す
ツゲ	1	本	1.7			1.8	
ヒラドツツジ	1	箇所	1.0			1.8	
ムクノキ	1	本	12.0	3.90	4	12.0	
ユキヤナギ	1	本	1.7			1.0	
5種の樹木がある。ムクノキノ大木がよく目立つ。							

図 - 現況樹木リスト(H29 調査)



[大木となっているムクノキ]



[左がムクノキ、中央が石碑、右がソメイヨシノ]

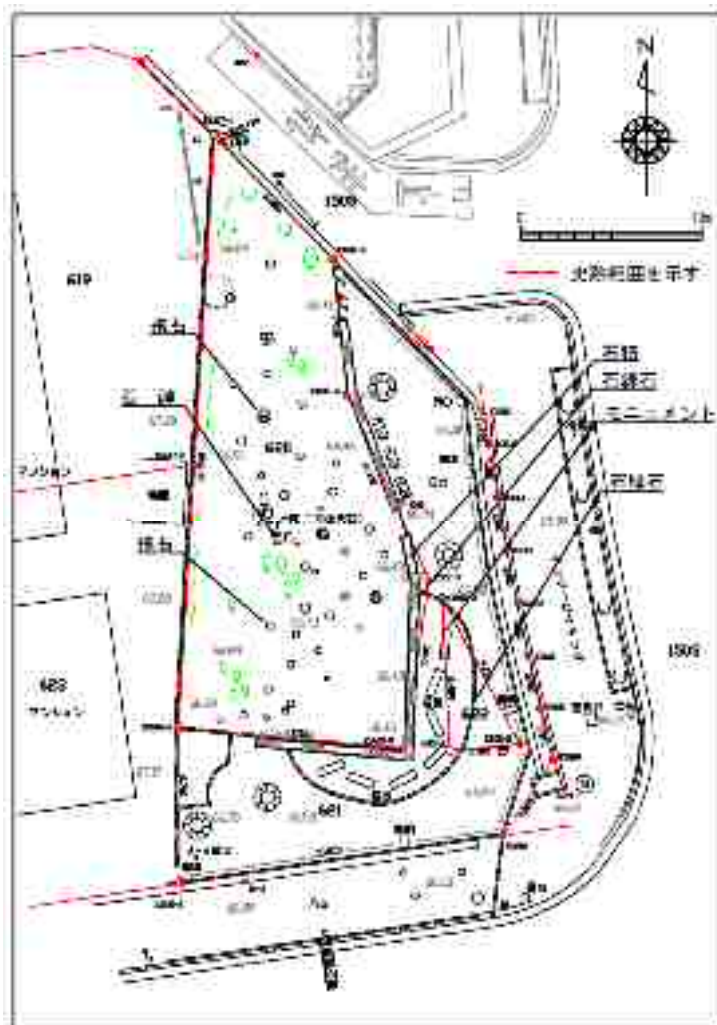


[ソメイヨシノは腐朽菌に侵されているものがある]

③ 現況土地利用

愛・地球博記念公園線、長久手古戦場駅前通り線の交差する位置にあり、リニモ線長久手古戦場駅に近く、古戦場モニュメントやベンチ等も置かれ街角広場的土地利用がされている。(モニュメントはわずかに史跡地内に建つが、ベンチは史跡地外である)

史跡地内は、石碑がある西側は緑地、東側は歩道となっている。史跡範囲がわかり難い場所である。



〔史跡東側〕



〔二本松代石〕

図 - 現況施設配置図(H29調査)

施設一覧

位置	番号	名 称	外寸(W×H×T),単位はcm	素 材	数 量	単 位	備 考
二本松塚 (西)	工作物						
	1	石碑		石製	1	式	記念碑
	2	石積	H=60	花崗岩製	17.6	m	
	3	石縁石	玉石	花崗岩製	0.4	m	
	4	飛石	φ 45程度	花崗岩製	37	個	
二本松塚 (東)	工作物						
	1	モニュメント		SUS枠、強化ガラス、鋳物	1	基	一部
	2	アスファルト舗装	H=45	コンクリート製	1.4	m	
	3	石縁石	玉石	花崗岩製	5.5	m	

石碑の詳細調査（H29 年調査・写真撮影）【二本松代石】

史跡指定当時この場所は元々庄九郎塚と地続きで、二本の老松があった。村界のはずれに立っていたことから「虫送り」の目安にされ、浮塵子松と呼ばれていた。その松を昭和 20 年代の初めに燃料不足を補うため伐採した。江戸時代に植えられた戦死士卒鎮魂の松を、伐り倒したため、代わりに石を置いて塚とした。それが今に残る「二本松代石」である。この碑は、史跡指定当時にはなかったものである。

大きさは、石碑が高さ 66cm、幅が 55cm で、台石が 57 c m×35 c m で花崗岩製である。（昭和 22 年建立）



〔正面〕



〔背面〕



〔右側面〕



〔左側面〕



〔平面〕